

秋田県立博物館

年 報

平成 28 年度

秋田県立博物館



はじめに

昨年、開館40周年を迎えた秋田県立博物館は、県民のための生涯学習施設としての役割を果たすために、あらゆる活動の根本に「県民と共にあること」を据えて事業を展開して参りました。来館者数は、10万7千人を超え、目標とする10万人をクリアしました。県立博物館の来館者数を評価する一つの指標として、県の人口あたりの来館者数を計算する方法があります。秋田県の人口は約102万人ですから、およそ10人に1人強が来館している計算になります。

さて今年度、秋田県立博物館は、「衝き動かす博物館」をキャッチフレーズとして掲げました。博物館は小泉瀉公園という緑豊かな環境にありますが、アクセスは決してよいとはいえません。その制約をはねのけて、より多くの県民の皆様にご貢献できる方法として考え出したのが、「衝き動かす博物館」の取り組みです。1人の入館者が観覧して終わりというのではなく、展示を見たり講演を聴いたりしたら、誰かに話したくなるような、見せたいくなるような、しかけをしていこうというものです。来館者が、友人に博物館のことを話して聞かせたら、利用者は2人と数えるという発想です。目標としては、「直接・間接を含めた利用者数を、現在の来館者数の2倍の20万人とする。」と設定しました。

衝き動かす手段として、博物館教室や体験活動を改善していくことにしました。「すごいパパになろう」という博物館教室は、「つり名人になる」「ザッコ捕りの名人になる」「貝捕りの名人になる」「くん製作りの名人になる」などのメニューが並びます。パパが魚や貝を捕って家族に振る舞えば、推定利用者数は4人・5人となります。受験が近くなれば、学問の神様菅原道真をかたどった天神人形づくりをメニューに加えます。この天神人形を、受験を控えたお兄ちゃんやお姉ちゃんにプレゼントすることで、推定利用者数は増えていきます。それは、博物館から発信された情報をもとにして、家庭や社会にコミュニケーションの場ができていくことを意味します。

もちろん、利用者数の実態を把握するのは不可能なのですが、博物館職員が今年度、展示をはじめとする事業に組む上での、合い言葉にしたいと考えています。博物館の意気込みを表しているものと、ご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

秋田県立博物館
館長 佐々木 人 美

目次

■ 施設の概要	
I 博物館のあゆみ	4
II 施設・設備	5
III 展示室	9
IV 組織	13
V 職員	14
■ 事業の概要	
I 平成28年度博物館運営方針	16
II 平成28年度博物館事業計画	16
III 平成27年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	23
3 展示活動	24
4 教育普及活動	30
5 広報出版活動	34
6 学習振興活動	35
7 開館40周年記念事業	36
8 館外活動	37
■ 資料	
I 収蔵資料の概要	40
II 歴代館長、特別展等一覧	41
III 秋田県立博物館条例	42
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	43
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	43
V 入館者に関する資料	44

施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年 3月 県立博物館設立構想完成
- 49年 11月 定礎式
- 50年 3月 秋田県立博物館条例制定
5月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年 9月 開館10周年記念式典
- 63年 9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年 7月 増築工事着工
- 7年 8月 増築工事完成
- 8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年 4月 入館料が無料となる
- 14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年 10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年 3月 展示工事完成
4月 リニューアルオープン
- 17年 12月 開館30周年記念式典
- 18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
- 27年 9月 開館40周年記念式典

Ⅱ 施設・設備

設置場所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷地面積	14,885.9m ²	(株)ユアテック秋田支社
建築面積	6,237.93m ²	サン電気工業(株)
建築延面積	11,946.2m ²	展示製作実施設計 (株)丹青社
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建築費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	昭和48年7月
竣工	昭和49年11月
開館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社

【増築工事】

建築費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	平成6年7月
完成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム

【NMP事業】

事業費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着工	平成14年3月
完成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたごJV

設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1) (250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA
エンジン	ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR 54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	
〈警戒(報)設備〉	
(1) レーダー警報設備	(展示室・収納庫) 方式、パッシブインフラレッド方式 レーダー検出 10ヶ所 ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備	監視用カメラ 21台 (展示室14台 収蔵庫4台 1Fホール1台 外2台)
(3) 一般・非常放送設備	ロッカ型防災アンプ 容量 200W 非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)
〈空調換気設備〉	
(1) 冷凍機設備	(備熱水槽方式 容量780m ³) 直焚吸収式冷温水機 冷却能力 1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基 ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統) 冷却能力 312KW 1基 空冷チリングユニット(夜間運転系統) 冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備	貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW (換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m³ 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m³/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m³/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所 屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベータ 容量2,500kg

45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター 積載量750kg

11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線49回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

NMP21事業予算

単位：千円

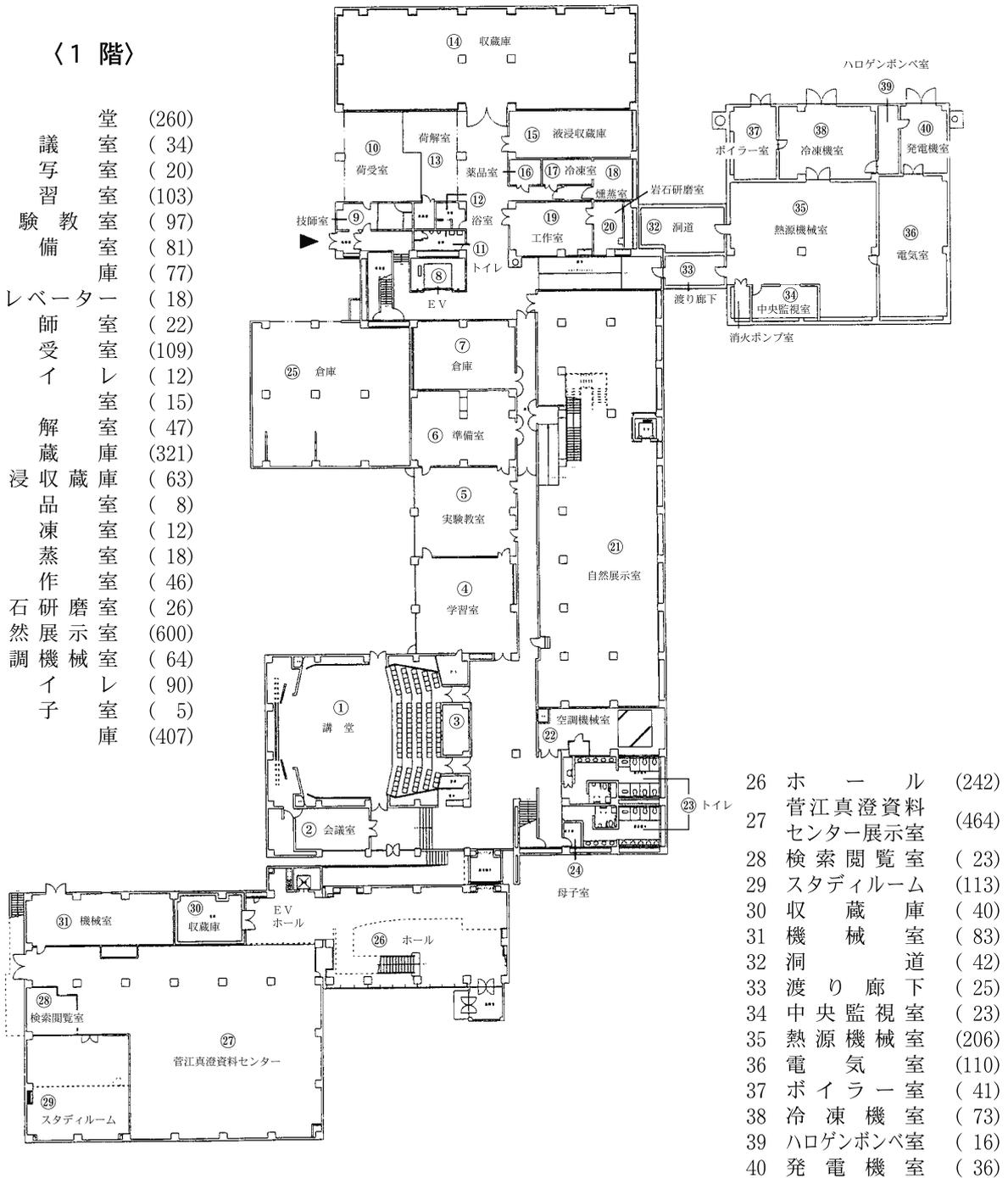
区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

一各階平面図一

() 内の数字は面積 (単位m²)

〈1階〉

- 1 講堂 (260)
- 2 会議室 (34)
- 3 写真室 (20)
- 4 学習室 (103)
- 5 実験教室 (97)
- 6 準備室 (81)
- 7 倉庫 (77)
- 8 エレベーター室 (18)
- 9 技師室 (22)
- 10 荷受室 (109)
- 11 トイレ (12)
- 12 浴室 (15)
- 13 荷解室 (47)
- 14 収蔵庫 (321)
- 15 液浸収蔵庫 (63)
- 16 薬品室 (8)
- 17 冷凍室 (12)
- 18 燻蒸室 (18)
- 19 工芸室 (46)
- 20 岩石研磨室 (26)
- 21 自然展示室 (600)
- 22 空調機械室 (64)
- 23 トイレ (90)
- 24 母子室 (5)
- 25 倉庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

部門別床面積(m²)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

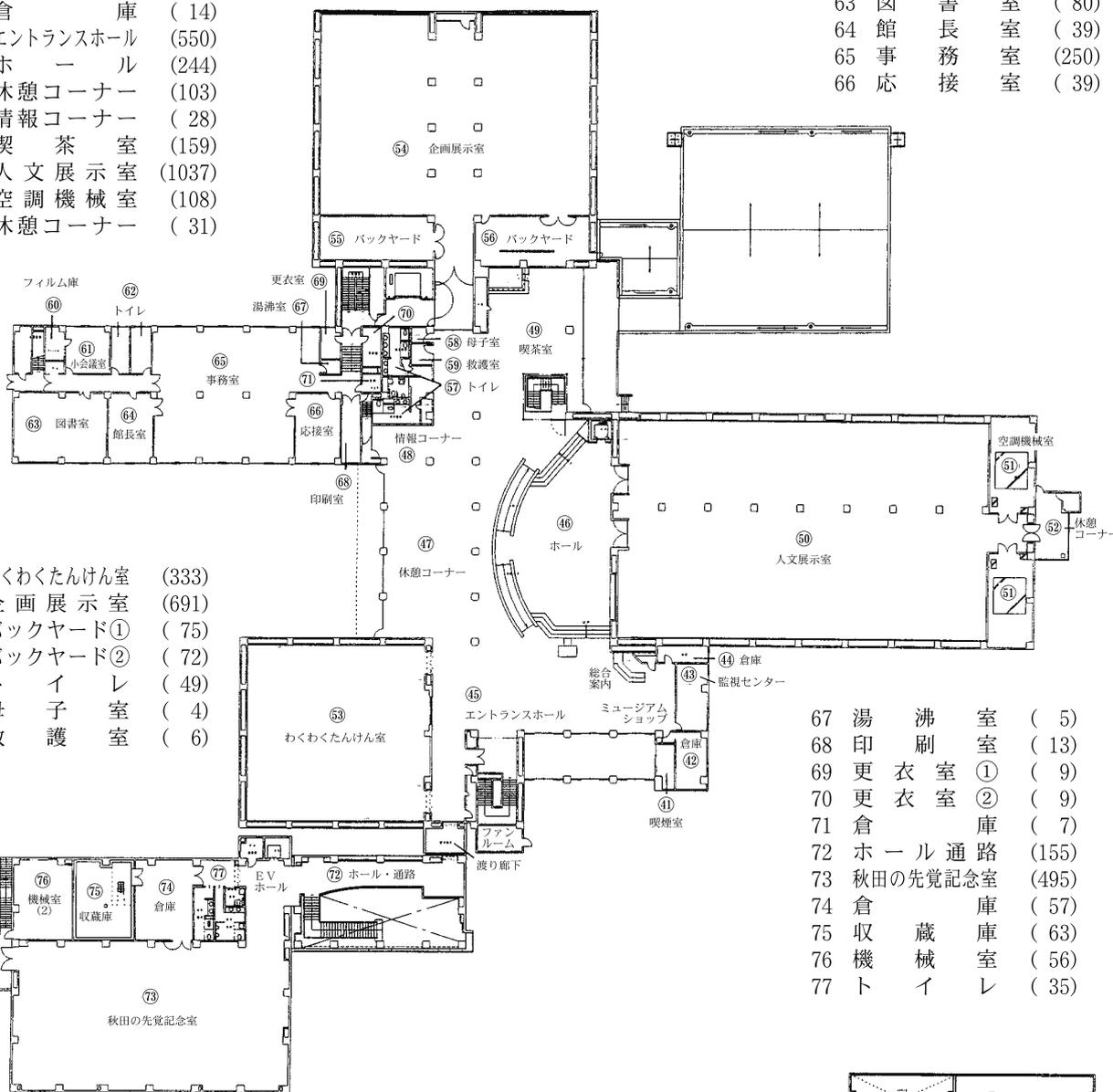
階別面積(m²)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2階〉

- 41 喫煙室 (8)
- 42 倉庫 (23)
- 43 監視センター (25)
- 44 倉庫 (14)
- 45 エントランスホール (550)
- 46 ホール (244)
- 47 休憩コーナー (103)
- 48 情報コーナー (28)
- 49 喫茶室 (159)
- 50 人文展示室 (1037)
- 51 空調機械室 (108)
- 52 休憩コーナー (31)

- 60 フィルム庫 (9)
- 61 小会議室 (26)
- 62 トイレ (29)
- 63 図書室 (80)
- 64 館長室 (39)
- 65 事務室 (250)
- 66 応接室 (39)

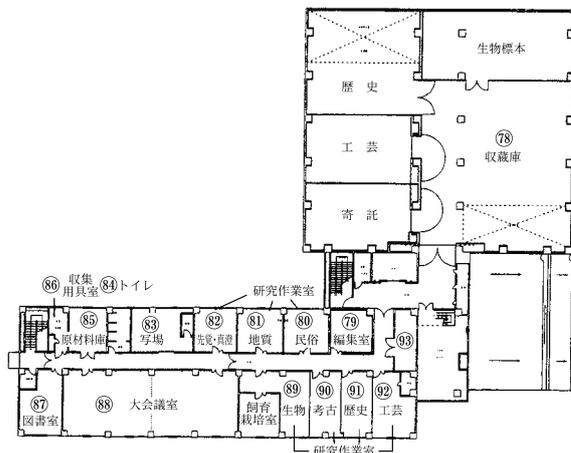


- 53 わくわくたんけん室 (333)
- 54 企画展示室 (691)
- 55 バックヤード① (75)
- 56 バックヤード② (72)
- 57 トイレ (49)
- 58 母子室 (4)
- 59 救護室 (6)

- 67 湯沸室 (5)
- 68 印刷室 (13)
- 69 更衣室① (9)
- 70 更衣室② (9)
- 71 倉庫 (7)
- 72 ホール通路 (155)
- 73 秋田の先覚記念室 (495)
- 74 倉庫 (57)
- 75 収蔵庫 (63)
- 76 機械室 (56)
- 77 トイレ (35)

〈3階〉

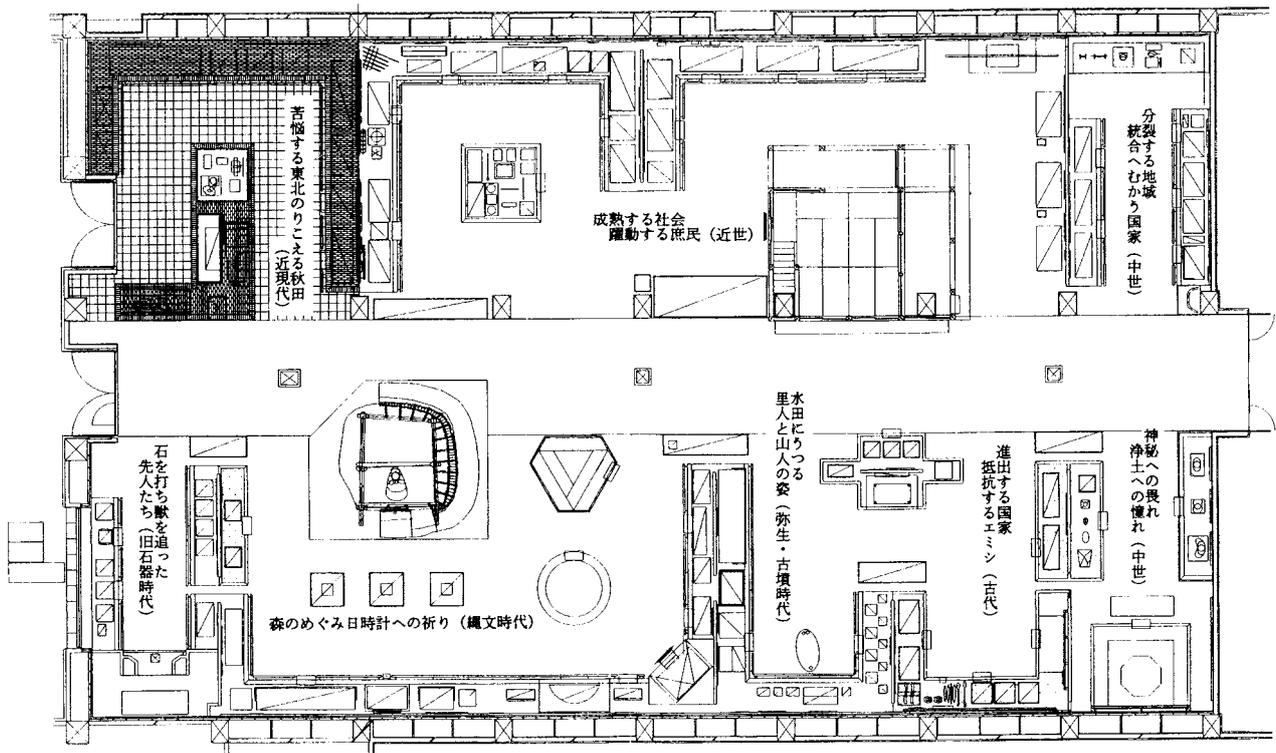
- 78 収蔵庫 (840)
- 79 編集室 (27)
- 80 研究作業室(民俗) (28)
- 81 " (地質) (28)
- 82 " (先覚・真澄) (27)
- 83 写場・暗室 (38)
- 84 トイレ (15)
- 85 原材料庫 (24)
- 86 収集用具室 (10)
- 87 図書室 (34)
- 88 大会議室 (158)
- 89 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 90 研究作業室(考古) (27)
- 91 " (歴史) (27)
- 92 " (工芸) (39)
- 93 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

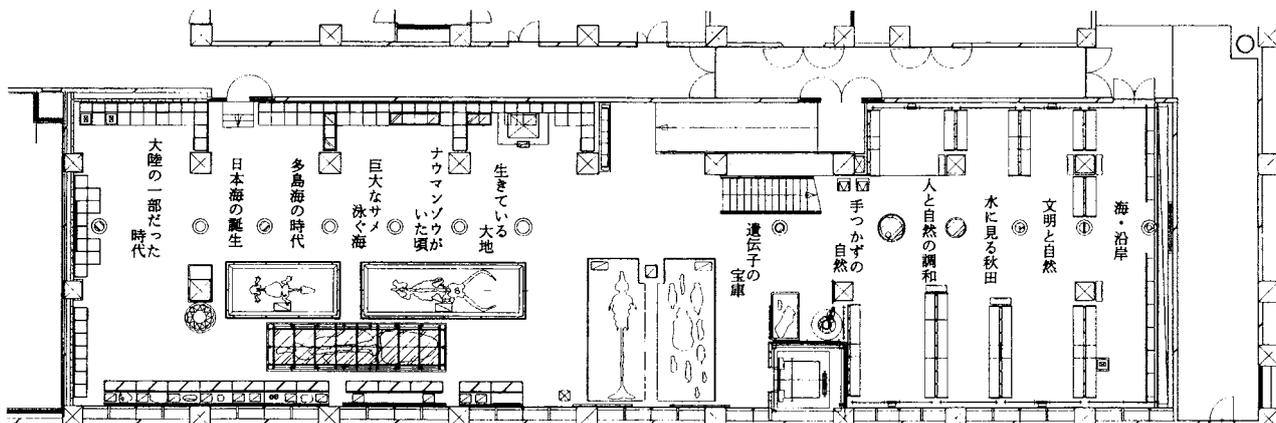
◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

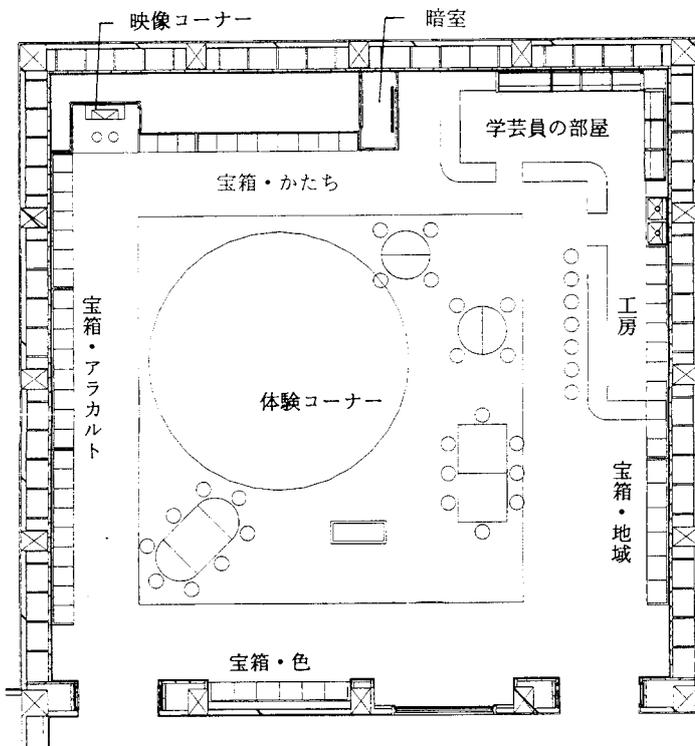


◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



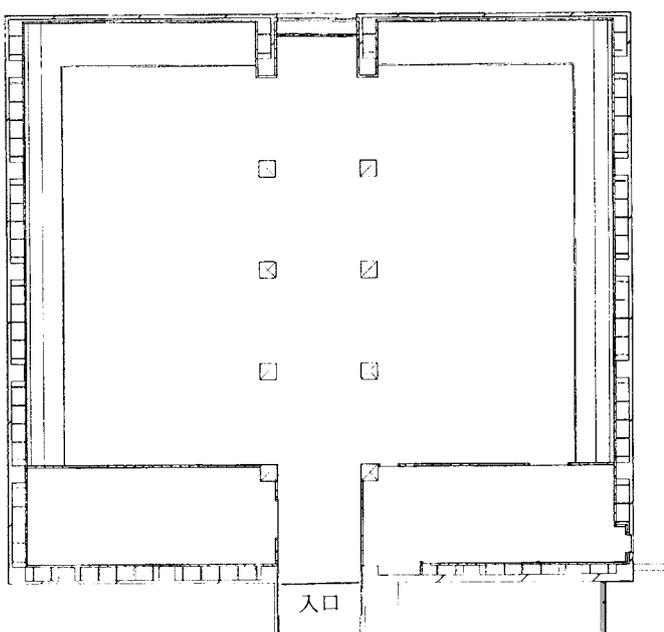
◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。学芸員の部屋には職員が常駐し、体験活動の支援を行うほか、来館者からの質問や調査依頼等にも応じている。



◆ 企画展示室



従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

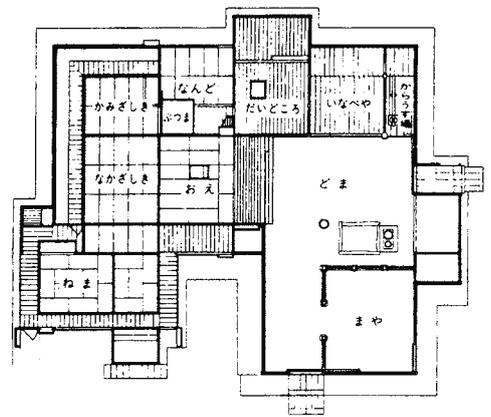
旧所有者 奈良恭三郎(昭和44年5月寄贈)

昭和40年5月29日 重要文化財(建築面積 459.08㎡)

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間(1751~1763年)9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治7年に建造された、土蔵造の建物

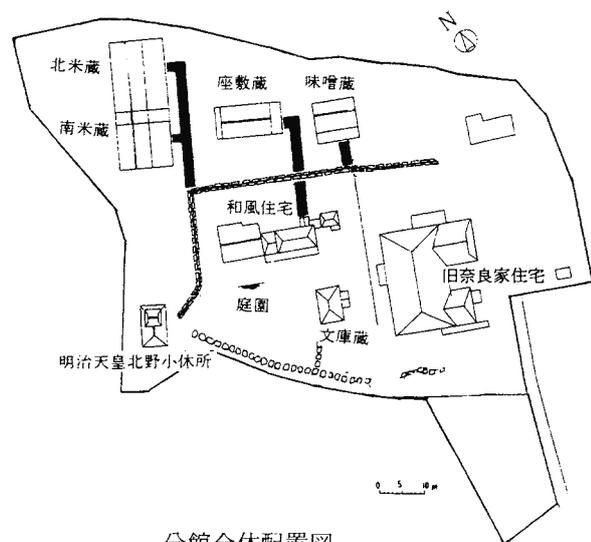
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所(移築)……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

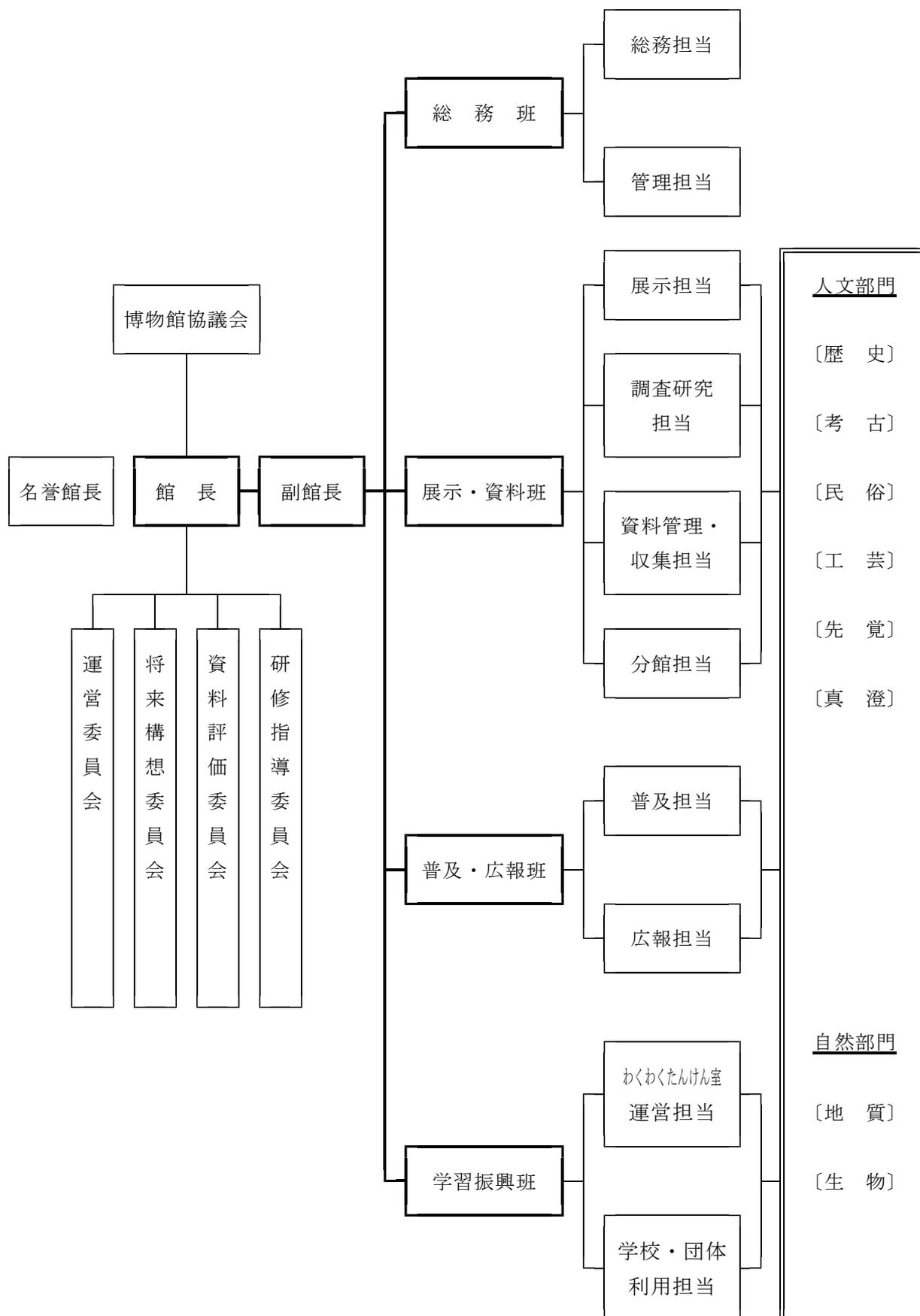
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	館 長	佐々木 人 美	総括
	副 館 長	伊 藤 すなお	館長の補佐
総務班	副 主 幹 (兼) 班 長	石 井 達 美	班の総括、危機管理に関すること
	主 査	清 水 寿 子	サービス、給与、歳入予算に関すること
	主 事	田 中 豊 人	管理、営繕、歳出予算に関すること
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事 (兼) 班 長	梅 津 一 史	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	松 山 修	資料管理、展示企画、真澄部門に関すること
	学 芸 主 事	畑 中 康 博	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	新 堀 道 生	調査研究、展示企画、歴史部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	丸 谷 仁 美	資料管理、分館、民俗部門に関すること
	学 芸 主 事	浅 利 絵 里 子	調査研究、展示活動、生物部門に関すること
普及・広報班	主任学芸主事 (兼) 班 長	船 木 信 一	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	佐 藤 隆	普及、広報、歴史・先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	藤 原 尚 彦	普及、広報、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	築 瀬 圭 二	普及、広報、地質部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	吉 川 耕 太 郎	普及、広報、考古部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	鈴 木 秀 一	普及、広報、地質部門に関すること
学習振興班	主任学芸主事 (兼) 班 長	伊 藤 真	班の総括、考古部門に関すること
	学 芸 主 事	池 端 広 樹	学校団体利用、先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	小野寺 康	学校団体利用、民俗部門に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	わくわくたんけん室の運営、工芸部門に関すること

[非常勤職員]

夏井 順一 (ポイラー)
 国安 民男 (同)
 五十嵐 一彦 (守衛)
 黒沢 清直 (同)
 石黒 司 (同)
 林 信久 (同)
 松橋 敏雄 (工 作)

佐藤 はづき (展示解説・案内)
 皆川 歩美 (同)
 木村 七緒子 (同)
 加賀谷 洋子 (同)
 朝野 恵美 (同)
 木村 真実 (同)
 小林 純子 (同)
 佐藤 里美 (同)
 舩屋 みずほ (同)
 関谷 百世 (同)

宮本 康男 (学芸補助)
 三浦 和恵 (同)
 佐々木 由衣 (同)
 藤井 千里 (同)
 山平 弥江子 (同)

事業の概要

I 平成28年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

- 1 本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。
- 2 県民のニーズに応える展示・教育活動等の在り方を追求する。
- 3 郷土秋田の自然や文化、歴史などに親しむことができる環境整備を図る。
- 4 県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、ボランティア団体などとの連携を図る。

II 平成28年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
 - ア 県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。
 - イ 館内調査研究報告会のさらなる充実を図る。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 長期的展望に立った計画的な資料の収集・整理をするとともに、収蔵スペースを確保する。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタルアーカイブ化推進とデジタル化されたデータの効果的な活用をさぐる。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を企画する。
 - イ 打って出る博物館として、出張展示を積極的に実施する。
- (4) 各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結ぶ効果的利用を図る。
 - ア 外部評価の検証をもとに展示室の特色を明確にする。
 - イ 各展示室の有機的なつながりを構築する。
- (5) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア 館内ボランティア組織などと連携して、博物館教室やミュージアムトーク等の充実を図る。
 - イ 博物館活動について効果的に広報することにより、一層の認知度向上に努める。
- (6) 「わくわくたんけん室」「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」の一層の充実を図る。
 - ア 体験活動についての情報・資料を収集するとともに、アイテムの開発に努める。
 - イ 秋田の先覚及び菅江真澄の企画コーナー展の充実により、入室者増に努める。

2 活動計画

調査研究

◇部門研究の推進

- ・歴史 館蔵歴史資料の整理と目録化
守屋家資料の研究
御用聞町人河村家の研究
- ・考古 秋田県域北部における古代集落の構造的検討
先史時代石材資源開発の研究
縄文時代の磨製石斧に関する研究
- ・民俗 昭和30年代後半の生活改善運動についての調査
秋田県内の妖怪記録の収集と分類・整理
- ・工芸 秋田県内におけるケラの製作技術
秋田県内における編組品の調査研究
- ・先覚 子どもに伝えたい秋田の先人
- ・真澄 『伊頭園茶話』と菅江真澄遊覧記

- ・地質 寒風山の風穴調査
秋田県の温泉と地質
- ・生物 秋田県に生息する希少動物の生態調査
秋田県産カザリバガ科の標本収集とリスト作成
植物を中心とする天然染料・顔料について

◇共同研究、博物館学的研究の推進

- ・久保田城下の生活誌（考古・歴史）
- ・川口溪谷周辺の土壌重金属と植生の関係
（県立大・生物）
- ・学校での学習とリンクする博物館の展示と活動
（博学）

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料のデータベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫
- ◎燻蒸期間 9月1日(木)～9月8日(木)
- ・小型燻蒸機の運用

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展・特別展
企画展「博物館の舞台裏で」
4月23日(土)～6月19日(日)
- 企画展「秋田の昆虫」7月16日(土)～8月28日(日)
- 特別展「発掘された日本列島2016」
9月22日(木)～10月30日(日)
- 企画展「四季のたのしみ、くらしのいろいろ」
11月19日(土)～平成29年4月2日(日)
- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「菅江真澄のふるさと」
7月16日(土)～8月28日(日)
- 「真澄クイズに挑戦」10月22日(土)～12月18日(日)
- 「《水の面影》探訪」3月18日(土)～5月14日(日)

- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「子どもに伝えたい 秋田の先人」
9月24日(土)～11月27日(日)
- ・ふるさとまつり広場
鹿島流し 4月12日(火)～6月12日(日)
- 七夕絵どうろう 6月14日(火)～8月21日(日)
- 秋田の手仕事～箕と六郷ざる～
9月13日(火)～10月30日(日)
- 秋田の凧 11月1日(火)～12月25日(日)
- 「おいしい」をいろいろ秋田のやきもの
12月27日(火)～2月19日(日)
- ひな人形・押し絵 2月25日(土)～4月2日(日)

教育普及

- ◇博物館教室等
- | | |
|--|--|
| 1 「真澄に学ぶ教室」 講読会
4/23(土)、5/28(土)、6/25(土)、7/23(土)
8/27(土)、10/8(土)、10/22(土)、11/26(土)
12/17(土)、1/28(土)、2/25(土)、3/18(土) | 17 アイの生葉で染める 8/17(水) |
| 2 舞台裏ガイドツアー 4/29(金)～5/8(日)
5/2(月)を除く | 18 幕末秋田藩講話会
8/24(水)、9/14(水)、9/28(水)
10/12(水)、10/26(水) |
| 3 楽しいしぼり染め－中級コース－
オリエンテーション 5/8(日)午前
技法とデザイン A、5/17(火) B、5/18(水)
C、5/19(木) D、5/20(金)
中間チェック A・B、6/1(水) C・D、6/1(水)
染め A・B、6/22(水) C・D、6/23(木)
合評会 7/20(水) | 19 三浦館・旧奈良家住宅合同見学会 8/27(土) |
| 4 楽しいしぼり染め－研究コース－
オリエンテーション 5/8(日)午後
技法と染め 5/29(日)、6/19(日)、7/31(日)
+特設2日(任意出席)
合評会 10/23(日) | 20 民俗学入門講座
9/17(土)、10/15(土)、11/19(土)、12/18(日) |
| 5 「発掘された日本列島2016」を楽しむ方法
5/14(土)、6/11(土)、7/16(土)、8/13(土) | 21 誰かに話したくなる考古・歴史学
9/25(日)、10/9(日)、10/29(土)、11/12(土) |
| 6 すごいパパになろう
5/15(日)、5/28(土)、6/12(日)、6/26(日)
7/24(日)、8/6(土)、8/14(日)、9/11(日)
9/18(日)、10/2(日)、10/16(日) | 22 絵筆で描く出土品 10/1(土) |
| 7 化石と地層の観察会 5/22(日)、5/29(日) | 23 里山の植物観察会 10/2(日) |
| 8 秋田の先覚記念室講演会
「石川紀之助・斉藤宇一郎・森川源三郎」
5/22(日)
「東海林太郎」物語 7/17(日)
「天野芳太郎を魅了した考古学」 10/10(月祝)
「博物館で聴く、成田為三の世界」 11/6(日) | 24 昆虫同定技術入門 10/9(日) |
| 9 初めての古文書解読
6/19(日)、6/26(日)、7/3(日)
7/10(日)、7/17(日)、7/24(日) | 25 古文書整理と修復の体験会 11/9(水)、11/16(水) |
| 10 「真澄に学ぶ教室」 講演会 7/9(土)、9/24(土) | 26 ゼロからはじめるワラ仕事
11/9(水)、11/16(水)、11/23(水)、11/30(水)
12/7(水)、12/8(木)、12/9(金) |
| 11 昆虫教室～採集と標本作り～ 7/17(日)、8/21(日) | 27 考古学資料整理・分析法
1/21(土)、1/28(土)、2/4(土)、2/11(土) |
| 12 子どもと大人の土器作り教室 7/23(土)、8/20(土) | 28 資料を食べよう 1/29(日)、2/26(日) |
| 13 夜の昆虫観察会 7/30(土) | 29 名誉館長館話－秋田と歴史－(前期)
5/13(金)、6/17(金)、7/15(金) |
| 14 高校生のための秋田学 8/2(火)、8/3(水) | 30 名誉館長館話－秋田－(後期)
9/9(金)、10/7(金)、11/11(金) |
| 15 親子で楽しむ藍染め体験 8/3(水) | |
| 16 石器づくり教室 8/7(日) | |
- ◇イベント事業
- ・『軒の山吹』再現 4/26(火)～5/1(日)
 - ・「盆踊りと昔語りと手仕事の夕べ」 7/16(土)
 - ・「ミュージアムコンサート」 3月下旬
- ◇展示付帯事業
- ・企画展「博物館の舞台裏で」 展示解説
 - ・企画展「秋田の昆虫」 展示解説
 - ・特別展「発掘された日本列島2016」 展示解説
 - ・企画展「四季のたのしみ 暮らしのいろいろ」 展示解説
- ◇あきた県庁出前講座
- ◇県内外の博物館等類似施設との連携
- ・日本博物館協会東北支部
 - ・秋田県博物館等連絡協議会
 - ・秋田市内文化施設連絡会議

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- ・博物館実務実習
- ・教職10年経過研修
- ・教員長期社会体験研修

▶ 広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 平成28年度 A 4判 44頁 1,000部
- ・博物館ニュース No.163・164
A 4判 8頁 各2,300部
- ・秋田県立博物館研究報告 第42号
A 4判 100頁 600部

- ・広報紙「真澄」 No.34 A 4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究 第21号 A 5判 100頁 500部
- ・企画展「秋田の昆虫」 展示解説資料
A 4判 8頁 1,000部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展 展示解説資料
A 4判 8頁 1,000部
- ・楽しいしぼり染め第13回作品展 パンフレット
A 4判 8頁 2,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ
企画展「博物館の舞台裏で」
企画展「秋田の昆虫」
特別展「発掘された日本列島2016」
企画展「四季のたのしみ、くらしのいろいろ」

▶ 学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用への支援・指導
- ・室内・体験アイテムの保守管理
- ・体験アイテムの開発及び改善
- ・消耗品等の在庫管理と発注
- ・出張わくわくたんけん室の運営
- ・他の展示室と連携した企画の計画と運営
- ・季節アイテム、イベントの計画と運営
- ・ボランティア・地域との連携

◇学校団体による博物館利用の支援

- ・セカンドスクールの利用の支援・指導
- ・セカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の利用促進
- ・学校団体利用数の集計と報告
- ・職業体験、インターンシップの対応
- ・「教員のための博物館の日」の実施

▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

◇分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成28年4月1日（金）から平成29年3月31日（金）まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために平成28年8月27日（土）に公開し学芸職員が解説を行う。

Ⅲ 平成27年度事業報告

1 調査研究活動

男鹿・南秋地域の地域研究が平成26年度の展示開催をもって完結となり、平成27年度は部門研究が中心になった。部門研究は、各部門担当者が長期的に進めているテーマや開催予定の展示に向けた調査が主になっている。地域研究については、対象地域を変えてこれからも行っていく方向であり、平成28年度中に次の計画を策定

していくことになる。

「研究報告第41号」には、部門研究や展示、普及に関わる論文・報告・短報が11件掲載された。

調査研究報告会は、平成26年度同様に、館内での開催に加え、選抜した6件の報告を秋田県生涯学習センターで一般公開する形で行った。

部門研究

◇考古

「秋田県域における先史人類の石材資源開発に関する研究」

珪質頁岩を中心とした産地調査及び旧石器・縄文時代の石器を分析し、先史時代における人々の石材獲得地の推定を行った。調査の結果、珪質頁岩の新たな産地や産状が明らかとなり、その成果を企画展「新着・収蔵資料展」及び調査研究報告会で紹介した。

「高校の日本史学習を支援する博物館の在り方について
—旧石器・縄文時代を題材に—」

旧石器・縄文時代における「博学（高校）連携」の可能性について、日本史教員へのアンケート調査や日本史教科書の分析などを通して考えた。研究の成果をアンケート協力者に配付し、高校教育現場へのフィードバックを図った。

◇歴史

「松本家資料の研究」

平成24年度に寄贈を受けた松本家資料（秋田市土崎、小宿・地主）の整理を行ったが、過去に目録化された帳簿と新出の帳簿との関係を確認するにとどまった。そのなかには塩会所の帳簿など、家の経営資料とは区別されるべきものも見いだされた。多種多様な帳簿があるため、その相互関係・系統の確認が今後の課題となる。

「守屋家資料の調査」

昭和50年の開館以来、未整理のまま収蔵されている守屋家資料の整理を行った。整理作業は、平成26年度から活動を開始した「秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティア」のメンバーと共に行った。整理作業と並行して嘉永6年(1853)2～3月「御用日記」を翻刻した。翻刻文は研究報告41号に載せた。

◇民俗

「県内の公民館結婚式事情」

戦後、生活改善運動の一環として行われた結婚式の改善事業について、公民館結婚式の事例を中心として聞き取り調査等を行った。調査結果については企画展「博物館からの挑戦状」でパネル展示を行うとともに、研究報告41号に掲載した。

「秋田県内の箕製作技術に関する調査」

平成26年度は秋田市太平地区のオエダラ箕製作技術について調査を行ったが、平成27年度は仙北市雲然地区の箕作り技術について佐藤定雄氏、智香氏から聞き取り調査を行うとともに、箕の製作過程について映像に記録した。また、田口昭平氏から引き続き箕を寄贈いただき、整理作業を行った。

「秋田県内の妖怪の記録について」

平成29年度の特別展「妖怪・神様博覧会」（仮称）開催に向け、「妖怪」という言葉で表されてきた存在の時代による変遷や、秋田県内の妖怪の各種記録を収集・整理し、結果の一部を調査研究報告会において発表した。

◇工芸

「秋田県内におけるケラの製作技術」

ワラ細工については、これまで履物類を中心に調査を進めてきたが、平成26年度からは対象を被服類に移し、特にケラの製作技術に焦点を当てた調査を実施している。

平成27年度は、県南地域の資料館7館と2個人宅および当館で、103点の資料について製作技術の細部にわたる調査を行うとともに画像データとして記録に残し、現時点での調査内容をまとめることができた。今後は、調

査域を拡げ、秋田県全体及び県内各地域の製作技術の特徴としてまとめたい。

「秋田県内における編組品の調査研究」

現在秋田県内の編組品について調査を進めているが、平成27年度は特に美郷町の編組品、六郷ざるとあけびづる細工について注目した。特に六郷ざるは、現在製作している人がいないため、早急に調査する必要がある。

調査の結果、六郷ざる、あけびづる細工について、素材、採集地、用途、歴史的背景を明らかにするとともに、製作技術を解析し、データとして記録に残すことができた。今後も調査対象範囲を他地域に広げ、編組品の地域性を把握しまとめていく。

◇生物

「秋田県に生息する希少動物の生態調査」

秋田市の繁華街で営巣するチョウゲンボウの繁殖生態と、東成瀬村で繁殖するキタオウシュウサンショウウオの産卵生態を調査した。後者は概要を調査研究報告会で一般に公開した。

「秋田県産小蛾類の標本と分布資料の収集」

平成23年度から継続して、県内における採集を行っている。平成27年度は鹿角地方、由利地方沿岸部での採集を数回行ったが、新しい知見は少なかった。

◇地質

「男鹿半島安田海岸の海食崖に形成された海食洞調査」

2014年12月に、男鹿半島安田海岸に、それまで存在していなかった海食洞が形成された。軟らかい砂泥からなる地層に形成された海食洞であるため、形成後の海食洞の変化を継続調査するとともに、その成因について考察した。また、海食洞が形成された地層には、たいへんよく目立つ洞爺火山灰層が含まれ、その火山灰層を変位させる断層が海食洞の内部でも観察されることから、その断層の記録を行った。これらの調査は共同研究として実施し、その結果を研究報告41号で報告した。

「秋田県の第四紀火山の噴出物と火山地形に関する調査 ～特に鳥海山及び寒風山について～」

現在、日本ジオパークネットワークに「鳥海山・飛島ジオパーク」が登録申請中であり、近年中にジオパークに認定される見込みである。地質部門としては、火山と

しての鳥海山について調査、資料収集を行い、展示に結びつける予定である。平成27年度は情報収集及び現地（山形県側）の予備調査を行った。

◇秋田の先覚記念室

「石川理紀之助の事績について」

石川理紀之助の事績、特にあまり注目されてこなかった歌人としての面を中心に調査し、調査結果は企画コーナー展で紹介した。

「多田等観に関する資料調査」

平成26年度に引き続き、平成27年度も御遺族の意向により多田等観の多くの遺品が寄贈となり、引き続き資料の整理・分類を行った。また、寄贈された遺品や資料についても関係機関の協力のもと特定を行い、今年度の企画展（新着収蔵資料展）で展示・公開を行った。しかしながら、寄贈された遺品の中には名称や年代等を確定できないものもあり今後の課題となっている。引き続き等観資料については大学などの研究機関と連絡を取りながら継続的な調査研究が必要である。

◇菅江真澄資料センター

「内田武志における丹羽嘉言論の形成過程」

菅江真澄をめぐる現在の研究では、「秀超」と「超」が、真澄の若い時分の名乗であったことが知られている。この解明は、昭和42年（1967）、真澄研究者の内田武志に宛てられた一通の手紙からはじまった。送り主は、愛知県西枇杷島町に住む水谷源二郎という人物であった。水谷は、丹羽嘉言の著作に出てくる秀超などが、白井秀雄、のちの菅江真澄ではないかとの考えを示したのである。この手紙に端を発して、昭和49年と翌年、愛知県岡崎市で超・秀超の署名のある書が発見され、それがまさしく真澄の筆致であった。真澄と丹羽嘉言の交友から、岡崎の塩問屋・国分家との交友も知られることになり、また、「一たびまなびのおや」とした植田^{よしえ}義方との関係も再考の余地があることがわかった。当館の内田文庫に残る、内田武志と県外研究者との手紙の遣り取りを中心にして、真澄研究上に丹羽嘉言が登場し、それがどのような広がりを持っていったかを論じた。

館内調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を平成28年1月25日（月）に本館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。

- 1 生活改善運動と結婚式の変化
～公民館結婚式を中心に～ 丸谷仁美
- 2 秋田県内におけるケラの製作技術
～県南地域の調査より～ 藤原尚彦
- 3 石川理紀之助と和歌 浅利絵里子
- 4 内田武志における丹羽嘉言論の形成過程
松山 修
- 5 徳川家康肖像画の移動・公開について 新堀道生
- 6 博物館統計資料からみる秋田県博 鈴木秀一
- 7 博物館のセカンドスクールの利用の在り方と可能性
工藤伸也
- 8 キタオウシュウサンショウウオの産卵生態
船木信一
- 9 逆断層のように見える正断層
～男鹿半島安田海岸の海食洞内に露出する断層～
渡部 均
- 10 高校日本史の日常的な授業を支援する博物館の在り方について
～旧石器・縄文時代の学習を題材として～
伊藤 真
- 11 多田等観資料について 池端広樹
- 12 先史人類の石材資源獲得戦略の解明に向けて
吉川耕太郎

- 13 嘉永六年 波宇志別神社守屋家の火災と処罰

畑中康博

- 14 秋田県における編組品について
～六郷ざる、あけびづる細工～ 斉藤洋子
- 15 秋田県内の妖怪の記録について 小野寺康
- 16 温暖化で北上しているウラギンシジミの秋田県内での発見
梅津一史

◇調査研究報告会（公開報告会）

標記の会を平成28年3月19日（土）に生涯学習センター3階講堂で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。一般参加者数は38名であった。

- 1 秋田県内の妖怪の記録について 小野寺康
- 2 秋田県における編組品について
～六郷ざる、あけびづる細工～ 斉藤洋子
- 3 秋田県内におけるケラの製作技術
～県南地域の調査より～ 藤原尚彦
- 4 石器の石材はどこから来たのか？ 吉川耕太郎
- 5 逆断層のように見える正断層
～男鹿半島安田海岸の海食洞内に露出する断層～
渡部 均
- 6 キタオウシュウサンショウウオの産卵生態
船木信一

研究報告等の発行

◇『研究報告』第41号

- 男鹿市北浦の落葉広葉樹二次林で採集した蛾類
梅津一史
- 秋田市内でのリュウキュウムラサキの観察例
梅津一史
- 2014年に男鹿半島安田海岸の海食崖に形成された海食洞
渡部 晟・渡部 均 他
- 逆断層のように見える正断層
～男鹿半島の安田海岸の海食洞内に露出する断層～
渡部 均 他
- 秋田県東成瀬村上掬遺跡出土の大型磨製石斧の石材について
中村由克・吉川耕太郎
- 高校日本史の日常的な授業を支援する博物館の在り方について
～旧石器・縄文時代の学習を題材として～
伊藤 真

秋田県内における結婚式の改善運動

- ～公民館結婚式を中心に～ 丸谷仁美
- 企画展を通じた常設展示資料の再評価の試み
～「石斧のある世界」展の開催とその意義～
吉川耕太郎

秋田の先覚記念室企画コーナー展

- 「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」展示報告
浅利絵里子
- 名誉館長館話実施報告抄 新野直吉
- 〔翻刻〕守屋家資料「御用日記」（嘉永六年二～三月）
畑中康博 他

◇『真澄研究』第20号

新野直吉『『牡鹿の嶋風』の「阿久呂王」、石井正己「講演記録 菅江真澄研究の戦後―内田武志の軌跡Ⅲ」、細

川純子「講演記録「葦の山口」の世界—当時の文芸事情と真澄の立ち位置」、松山修「内田武志における丹羽嘉言論の形成—真澄若年期の名乗の解明過程」、註解・

丹羽嘉言著『江山清楽』、影印・『江山清楽』(部分)、影印・丹羽嘉言著『謝庵遺稿』

2 資料収集管理活動

平成27年度中に寄付等で新たに登録された資料は2403点であった。企画展等での展示をきっかけに類似資料の寄付の申し出を受けるケースが目立つようになってきたが、系統立った収集を意識して取捨することも考える必要がある。

収蔵スペースの不足は、新たな棚の設置などによる残り少ない空間の有効利用でしのいでいる状態であり、苦

しい状況が続いている。また、予算不足のためにガス燻蒸を実施できる空間がより限定的になる傾向にあり、1～2年おきの実施を余儀なくさせられる場所もある。日常的な環境管理の態勢を強化する必要がある。

特別利用は資料の写真掲載の件数が相変わらず多く、大きな事務作業量となっている。こうした画像データの提供のあり方について検討が必要である。

平成27年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分
工芸	染色用型紙	489	寄付
	六郷ざる	3	寄付
歴史	秋田藩関係書状	4	寄付
	秋田市及牛島町之図	1	寄付
	鉄道オレンジカード、テレホンカード	87	寄付
	鉄道映像(8ミリフィルム)	6	寄付
	勲業日誌 他	6	寄付
考古	小林運平収集資料 一式	1	寄付
	土器、石器(磨製石斧) 他	10	寄付
	香炉形土器(陣馬岱出土)	1	寄付
民俗	天神人形(八橋人形) 一式	1	寄付
	カメラ、レンズ	3	寄付
	オエダラ箕 他	110	寄付
	八橋人形 他	37	寄付
	天神人形 他	11	寄付
	天神人形(八橋人形) 他	18	寄付
	猿倉人形(首)、交流書簡(年賀状)	2	寄付
	カルサン、えずめ	2	寄付
	祭礼山車絵図(軸装)	1	寄付
	リードオルガン(ヤマハ八号)	1	寄付
	除草下駄 他	52	寄付
	土産用ケラ(十文字仁井田製)	1	寄付
	LPレコード	5	寄付
	8ミリ映写機 他	62	寄付
	年中行事屏風 他	58	寄付
	オエダラ箕 他	68	寄付
	生物	維管束植物標本(さく葉標本)	42
維管束植物標本(さく葉標本)		257	寄付
維管束植物標本(さく葉標本)		334	寄付
ダイオウイカ		2	採集
維管束植物標本(さく葉標本)		378	寄付
サケ卵巣・精巣(液浸標本)		1	寄付
アカゲラ(本剥製)		1	寄付
維管束植物標本(さく葉標本)	219	寄付	
地質	マークオサムシ(展足標本)	2	寄付
	アンモナイト(化石)	2	寄付
先覚	植物化石	30	寄付
	クジラ化石を含むノジュール	1	寄付
	石川理紀之助肖像写真	1	寄付
	洋刀	2	寄付
	多田等観資料	17	寄付
真澄	勝平得之版画(はがき)	8	寄付
	多田等観遺品	7	寄付
	適産調終了記念(軸装) 他	7	寄付
	中川重春関係資料(肖像写真 他)	43	寄付
	短冊「春風解氷」	1	寄付
伊藤甚一短冊、細谷則理短冊	3	寄付	
菅江真澄研究所関連アルバム	4	寄付	
寺内古絵図(模写)	1	寄付	
合計(件数)		2,403	(49)

平成27年度収集資料一覧

平成28年3月末日現在の資料総数()は平成27年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	137	626	18	0	0	3,698 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,326 (492)	1	13	0	0	13,711 (492)
歴史	5,125	3,056 (104)	113	184	0	73	8,551 (104)
考古	245	2,170 (12)	31	190	0	0	2,636 (12)
民俗	2,280	7,539 (432)	120	36	4	0	9,979 (432)
生物	17,345	75,726 (1,234)	7,711	36	1,652 (2)	0	102,470 (1,236)
地質	3,556	2,871 (33)	1,408	18	7,645	0	15,498 (33)
先覚	131	4,993 (85)	12	0	0	2	5,138 (85)
真澄	143	1,755 (9)	11	300	0	0	2,209 (9)
合計	39,528 (0)	104,598 (2,401)	10,035 (0)	803 (0)	9,301 (2)	75 (0)	164,340 (2,403)

平成27年度館蔵資料貸出状況

目的別

貸出先	県内外別			目的別				
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等	4	1	5	5	0	0	0	5
教育機関	大 高 等 学 校	1	1	2	1	1	1	3
	中 学 校	0	0	0	0	0	0	0
	小 学 校	1	0	1	0	0	1	1
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0
研究所・文化団体	1	0	1	1	0	0	0	1
出版報道機関	1	0	1	0	0	0	1	1
都 道 府 県	0	0	0	0	0	0	0	0
市 町 村	4	1	5	4	1	0	0	5
個 人	1	0	1	0	1	0	0	1
計	13	3	16	11	3	2	1	17

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。

平成27年度資料特別利用状況

利用者	県内外別			目的別							
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他	
博物館	都道府県立	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0
	市町村立	2	2	4	2	0	1	0	2	1	0
	その他	3	2	5	0	0	0	0	4	1	0
企業	出版	13	40	53	52	2	1	0	2	0	0
	映像	12	6	18	4	10	2	0	1	0	0
	TV	5	9	14	1	15	0	0	0	0	0
	その他	4	0	4	0	0	1	0	2	1	0
教育機関	大学	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0
	その他	5	2	7	3	0	1	0	4	0	0
個人	都道府県	7	4	11	4	1	2	0	1	0	0
	市町村	7	4	11	4	0	1	0	5	1	0
	個人	10	5	15	9	0	2	0	1	3	0
計	63	76	145	81	28	11	0	24	5	0	

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	3	2	3	1	0	0	0
考古	9	1	8	4	1	0	3
歴史	41	0	39	19	1	0	15
民俗	17	5	17	6	1	0	5
生物	3	0	3	2	0	0	0
地質	0	0	0	0	0	0	0
先覚	19	3	14	10	5	0	2
真澄	40	1	34	31	4	0	8
その他	7	4	4	1	2	0	1
計	139	16	122	74	14	0	34

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。

※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者の合計とが異なっている。

燻蒸消毒および虫・菌害管理

燻蒸消毒

燻蒸消毒は平成27年6月29日（月）～7月6日（月）に、酸化プロピレン製剤（商品名アルプ）を使用し、3

階収蔵庫のうち生物・民俗収蔵庫を燻蒸した。

小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により、寄贈資料の搬入時に使用した。27年度の稼働回数は15回であった。

3 展示活動

平成27年度の特別展は、東北歴史博物館との共催で「徳川将軍家と東北」を開催した。国宝や重要文化財が所狭しと並ぶ大変見応えのある展示で、当館としては予想を遙かに上回る来館があり、優品の力を感じさせられた。

企画展3本は、それぞれ性格の異なる展示となったが、それぞれが異なるニーズを満たすものになったのではないと思われる。

平成27年度から本格実施する形となった出張展示は、

6件の実施となった。館内で実施した展示を下敷きにするとは言え、会場にあわせて再構成し、パネルなどもほとんど作り直しになったため、かなりの作業量になった。

菅江真澄資料センター・秋田の先覚記念室の企画コーナー展、ふるさとまつり広場や人文・自然展示室の可変展示はほぼ例年並みの回数の展示更新であった。今後、こうした空間を利用して常設展示がほとんどない民俗や工芸の資料の展示など、新たな試みも検討したい。

企画展ほか

◇企画展「石斧のある世界」平成27年4月25日（土）～平成27年6月21日（日）

＜展示概要＞

当館で所蔵している重要文化財・大型磨製石斧が発見されて半世紀となる節目の年に資料的価値の再評価およびその価値を県民に広める目的で企画・開催した。

＜展示構成と主な展示資料＞

- 1 フロンティアたちの石斧～日本列島移住期の石斧とそのナゾ～

旧石器時代の局部磨製石斧とその用途について、木材伐採具説のほか、大型動物解体具説、落とし穴掘削具説、丸木舟製作具説を紹介。また、磨製石器が旧石器時代から出現した日本列島の固有性も解説。

県内各地旧石器時代遺跡の石斧

- 2 新たな時代を切り拓く石斧～縄文時代の石斧とその種類～

秋田県内から出土した資料を中心に、打製石斧・磨製石斧の違いと、その中での細分形態の違いを網羅的に解説。

県内各地縄文時代遺跡の石斧

- 3 石斧をつくる

秋田県内の石斧製作遺跡出土品や復元品から、石斧の製作工程を紹介。

青森県熊ヶ平遺跡、湯沢市白館跡出土品、復元品

- 4 石斧をつかう～日常のなかの石斧～

縄文時代の石斧は木材伐採、竪穴住居等の掘削に使われたほか、後晩期には畑作関連道具と推測される秋田県に特徴的な「虫内型有肩打製石斧」があることを紹介し、機能的多様性を解説。

県内出土の縄文時代の石斧とその周辺遺物

コラム 石斧の実験考古学

首都大学東京考古学研究室で長年実施されている石斧の製作と使用に関わる実験考古学、使用痕研究の成果を紹介。

5 祈りと象徴～儀礼のなかの石斧～

縄文時代の石斧は象徴的な意味合いでも用いられたことを、墓の副葬品、儀礼的な出土状態を示す石斧などから解説。特殊な石斧は物々交換され、広域に流通したことも示し、また、大陸との関連についてもあわせて紹介。

副葬された秋田県・青森県・岩手県出土の磨製石斧や土器、斧状土製品など

6 巨大石斧の世界

縄文時代の巨大な磨製石斧は北日本に分布することを紹介。その背景には、大陸からの北回りの文化流入の可能性があることを示す。

大型磨製石斧（浦臼・高野・上掬・日戸ほか）

7 生きている石斧、消えつつある石斧

海外の民族事例から利器、シンボルとしての石斧のあり方を紹介。

パプア・ニューギニアの石斧

<付帯事業>

- 1 ロビー展示「上掬遺跡の最新成果速報展」
(5月2日～6月7日)
- 2 体験イベント「ミニチュア石斧を作ろう」
(5月3日)
- 3 体験発掘バスツアー「巨大石斧の出土地を訪ねる
in東成瀬村」
(5月30日)
- 4 考古学レクチャー「世界最大の石斧のなぞに迫る」
(6月7日)
- 5 ギャラリートーク(4月25日、5月6日、5月24日、
6月14日、6月21日)



担当：吉川耕太郎・伊藤 真（考古）

◇企画展 企画展「博物館の挑戦状－秋田現代史への招待－」平成27年7月25日(土)～平成27年8月23日(日)

<展示概要>

この展示は、昭和30～40年代、国策として推し進められた高度経済成長政策により、農業社会の秋田県民の暮らしはどのように変化したのか？という視点のもとに、人々のまわりにあふれ出た生活雑貨品を展示した。

<展示構成>

- 1 時代を超えて－ホーロー看板の小径－
観覧者を昭和の世界にいざなうコーナー。昭和30～40年代県内の風景を印刷したタバストリーとホーロー看板を展示した。
- 2 懐かし農村の日常
昭和30年代の県民の暮らしの中で使われた農機具や生活用品、そしてこの時代に始まった公民館結婚式関連の資料を展示した。
- 3 花あふれる生活
昭和40年代の生活の変化を示す資料を展示した。
フロアには2台のホンダS600、展示ケース内には花柄調理器具や食器が並んだ。
- 4 模型少年の日々
昭和30～40年代生まれの少年を魅了した模型屋を復元。プラモデル1000点を展示。
- 5 人形遊びの午後
当時の子ども部屋（女の子用）を復元し、女性観覧者が着せ替え人形で遊んだ少女時代を彷彿させるコーナーとした。

6 男泣き家電ランドDX

男たちが熱中したラジカセ、オーディオ等の娯楽家電、カメラを展示し「最新式」を追い求めた青春の日々を彷彿させるコーナーとした。



担当：畑中康博（歴史）

◇特別展「徳川将軍家と東北—泰平の世の歴史と名宝—」平成27年9月12日(土)～平成27年10月25日(日)

主催：秋田県立博物館・東北歴史博物館（徳川将軍家と東北展実行委員会）

共催：NHK秋田放送局

特別協力：公益財団法人徳川記念財団、久能山東照宮

後援：秋田県神社庁他

＜展示概要＞

長く泰平の世が続いた江戸時代の歩みを、徳川将軍家と東北との関わりを中心に振り返った。徳川家康没後400年と当館の開館40周年を記念し、東北歴史博物館と実行委員会を構成し開催した。多数の観覧者を集め、展示室ではじっくり展示品を観覧する姿が目立ち、県民が質の高い文化財に親しむ好機会となった。

＜展示構成と主な展示資料＞

- 1 天下人家康と東北／2 東照宮の光輝
- 3 徳川将軍家の遺宝／4 新たな時代へ

重要文化財 肩衝茶入 銘初花／重要美術品 太刀 銘来国光 徳川家康所用／東照大権現像 四代木村了琢筆／小袖（浅葱縮地松桜芦羽衣模様）和宮所用／阿古陀香炉 天璋院所用／徳川慶喜像 川村清雄筆（徳川記念財団蔵）

重要文化財 白檀塗頭形兜・頬当 徳川家康所用／重要文化財 太刀 銘雲次 徳川家光寄進／貫衆具足 徳川家綱寄進／卯花威胴丸（久能山東照宮博物館蔵）重要文化財 脇差 銘長船勝光宗光 徳川家康所用／重要文化財 東照社縁起／国宝 牡丹時絵屏／「東照宮」 松平容保筆（日光東照宮宝物館蔵）

国宝 上杉家文書のうち 米沢市上杉博物館蔵
宮城県指定文化財 木造伊達政宗倚像 瑞巖寺蔵
秋田市指定文化財 人色皮包仏胴黒糸威具足
佐竹義宣所用 秋田市立佐竹史料館蔵 他

＜印刷物＞

図録『徳川将軍家と東北 泰平の世の歴史と名宝』

＜付帯事業＞

- 記念講演会 9月12日(土)「徳川の『平和』と東北」
徳川恒孝氏(徳川記念財団理事長・徳川宗家18代当主)
- 特別講座 9月27日(日)「東北が拓く江戸の未来」
徳川家広氏(徳川記念財団理事・長崎大学客員教授)
- 歴史学習会 10月18日(日)「佐竹氏秋田転封は左遷だったか」
新堀道生(当館学芸主事)

○展示解説会（8回、企画展示室）

担当：新堀道生、塩田達也（東北歴史博物館）

○キッズのための展示解説（2回、企画展示室）

担当：斉藤洋子

○イベント「江戸時代へわくわくタイムスリップ！」

（わくわくたんけん室）担当：斉藤洋子

・江戸時代の遊び（随時）



担当：新堀道生（歴史）
斉藤洋子（工芸）
吉川耕太郎（考古・広報）

◇企画展「新着・収蔵資料展 未見！発見！秋田県！」平成27年11月14日(土)～平成28年4月3日(日)

＜展示概要＞

当館には年間約500点あまりの資料が寄贈されているが、そのほとんどは収蔵庫に保管されたまま公開する機

会がないものが多い。そこで2～3年に一度「新着・収蔵資料展」と称し、新着資料や新たな調査研究成果のあった資料などの展示を行っている。今回は8部門から

約 400 点の資料を展示したほか、日ごろ資料整理などに尽力いただいているボランティアの活動についても紹介した。

<展示構成>

- ◎化石が語る昔の秋田～秋田の化石の魅力を発見！～
(地質)
- ◎産地直送秋田屋水産 (生物)
- ◎帰化植物標本～外来種侵入の確かな証拠～ (生物)
- ◎植物標本整理ボランティアの活動 (生物ボランティア)
- ◎新知見、石器石材研究の最前線 (考古)
- ◎私たちはなぜ「縄文」に惹かれるのか～縄文時代と現代～ (考古)
- ◎考古学ボランティアの活動／収蔵資料のクリーニング (考古ボランティア)
- ◎古文書整理の醍醐味 (歴史ボランティア)
- ◎県博鉄道コレクション (歴史)
- ◎秋田の土人形大集合！ (民俗)
- ◎嫁ぐということ (民俗)

- ◎アケビ細工～中川原十郎のわざと美～ (工芸)
- ◎島田五空・多田等観の新着収蔵品 (先覚)
- ◎近泰知著『植田の話』と真澄 (真澄)

<付帯事業>

展示解説

展示期間中の土日及び祝日には、毎回 1 部門のリーダー解説を実施した。



担当：丸谷仁美 (民俗)

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第67回企画コーナー展〕真澄の旅～信濃と越後と～
7月18日(土)～8月30日(日)

菅江真澄による信濃と越後 (現在の長野県と新潟県) における旅は、一年半に及んだ。信濃の旅では 4 冊の日記が知られているものの、一ヶ月半に及ぶ越後の旅は、日記が未発見のため後年の記録から推測することになる。展示では、信濃における 4 冊の日記である「伊那の中路、わがこころ、すわの海、くめじの橋」について、エピソードを拾いながら紹介した。越後の旅については、推測される足跡ルートとその根拠を一枚のパネルにまとめて紹介した。また、それぞれの冊子についてのクイズを出題した。解説資料にその答えと解説を付け、楽しんで真澄の著作を読んでもらえるよう工夫した。

担当：松山 修 (真澄)

〔第68回企画コーナー展〕内田文庫の貴重資料
10月24日(土)～12月20日(日)

内田武志は病床にありながら、生涯にわたって真澄研究に取り組んだ人物である。その成果は、数多くの著作や論考として結実し、とりわけ、十年をかけて刊行に取り組んだ『菅江真澄全集』(未来社刊)は、現在でも真澄研究の礎であり指針ともなっている。当館は、武志

の研究資料や原稿、書籍などを「内田文庫」として保管している。展示では、「内田文庫」及び「菅江真澄研究所」関連資料から、真澄研究の上で貴重となる資料を紹介した。展示は、初期出版物と素材・失われた資料と不明資料・県外研究者からの便り・資料の情報収集・原稿の数々・菅江真澄研究所の活動・「内田文庫」の遺墨資料の 7 部構成として、資料 35 点を紹介した。

担当：松山 修 (真澄)

〔第69回企画コーナー展〕奥羽永慶軍記と真澄
平成28年3月19日(土)～5月15日(日)

菅江真澄は、その土地の歴史や地名の由来などを記録する中で、軍記物を引用することがある。特に、県南三郡を取り上げた地誌では、戸部一愨斎が著した『奥羽永慶軍記』を多く引用している。奥羽永慶軍記は、現在の東北全般について、戦国時代の合戦や武将の興亡を活写した軍記として知られている。展示では、奥羽永慶軍記の内容を概観しながら、真澄の引用の仕方を紹介するなどした。展示は、奥羽永慶軍記とは、・永慶軍記引用の目的・永慶軍記の引用・小野寺氏中心の引用・真澄の図絵と永慶軍記・永慶軍記と小野寺興廃記の接点の 6 部構成とした。

担当：松山 修 (真澄)

◇秋田の先覚記念室 企画コーナー展

「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」

9月26日(土)～11月29日(日)

<展示概要>

石川理紀之助は、貧しい農村を救うために生涯をささげ、農聖として人々の尊敬を集める一方、貞直という号をもつ歌人として、多くの和歌を詠んだといわれている。歌人・貞直としての一面を、和歌に関する資料や折々に詠んだ和歌とともに紹介した。

<展示構成>

- 1 理紀之助と貞直
- 2 祖父喜一郎と菅江真澄
- 3 蓮阿上人と後藤逸女
- 4 高橋正作
- 5 草木谷で
- 6 谷頭
- 7 歌友との交流
- 8 底に流れるもの

<付帯事業>

- 1 講演会「天地の御恵み忘るべからず」
実施日：11月8日(土) 午後2時～3時30分
講師：草木谷を守る会代表 石川紀行氏
- 2 紙芝居「石川理紀之助物語」



担当：浅利絵里子(先覚)

◇他施設との連携展示(主なもの)

「ゴ本(ホン)！といえぱくすり展

～秋田のミニくすり博物館～(秋田県立図書館)

3月5日(木)～5月29日(金)

平成25年度の企画展「秋田のくすり今昔物語」の内容を基盤にし、図書館、公文書館と連携してアレンジを加え、秋田の薬文化を紹介した。会期中に講座、展示解説を実施した。

担当：浅利絵里子(先覚)

「春の小さな鉄道展in能代エナジウムパーク」

(能代エナジウムパーク)

4月25日(土)～5月6日(水)

担当：畑中康博(歴史)

「男泣き家電ランドin羽後町」(羽後町歴史民俗資料館)

5月1日(金)～7月15日(水)

担当：畑中康博(歴史)

「おおだて縄文人のくらしと祈り」(小畑勇二郎記念館)

7月25日(土)～8月30日(日)

当館所蔵の縄文時代晩期の矢石館遺跡出土品を中心に、当該遺跡の地元で、学校の夏期休暇にあわせて開催。期間中、地元中学生を対象に展示解説及び講演を展示会場にて行った。

担当：吉川耕太郎(考古)

「秋田の昆虫」(白神山地世界遺産センター)

7月29日(水)～8月26日(水)

夏休み期間にあわせた昆虫の展示を、県自然保護課を通して依頼を受けた。館蔵標本から、秋田県内に生息するチョウ、大型甲虫、スズメバチ類、トンボなどに加え、白神山地特産のシラカミナガチビゴミムシなど、178種356個体を、標本箱11箱に配列して展示した。

担当：梅津一史(生物)

◇可変展示

人文展示室 展示替えコーナー

- ・「発掘された久保田城下の武家のくらし」
9月20日(日)～1月10日(日)
秋田市中心街区の再開発等に伴い県埋蔵文化財センターが発掘調査した久保田城下の近世遺跡から出土した陶磁器や刀等を紹介。 担当：吉川耕太郎 (考古)

自然展示室 展示替えコーナー

- ・「海から来たもの」 3月31日(火)～11月1日(日)
秋田県は海に面し、海運や漁業、レジャーなどで利用してきた。こういった人の営み以前の昔から、浜辺には漂着物という形で様々なものが流れ着いた。漂着物は、海の生き物をはじめ、外国の製品や流木、人間の出したゴミなど多岐にわたり、そういった漂着物を観察することで、海に興味を持つ切っ掛けや環境について考える機会となるような展示を行った。
担当：鈴木秀一 (生物)

- ・「砂の中から化石をさがそう」
11月3日(火)～4月28日(木)
平成27年度の受入資料の中に、男鹿半島北海岸の潟西層釜谷地相産の貝化石がある。その化石の大部分は大きさ数ミリ以下の微小貝であり、それらを地層から選り分け、ルーペや顕微鏡で調べ、名前をつけて分類したのは当館旧職員の渡部晟氏である。この展示では、たくさんの化石標本を小さな標本ビンに入れた状態で展示し、研究者が化石を分類・同定する様子を写真で紹介した。

また、わくわくたんけん室で実際に砂の中から化石を探す体験ができることを紹介し、来館者に化石を探す面白さを感じ取ってもらう展示をめざした。

担当：渡部 均 (地質)

ふるさとまつり広場

- ・「上掬遺跡の最新成果報告」
5月2日(土)～6月7日(日)
- ・「七夕絵どうろう」 6月9日(火)～7月24日(金)
- ・「秋田の土人形」 9月1日(火)～11月1日(日)
- ・「正月儀礼～農作を祝う・豊作を祈る」
11月3日(火)～1月31日(日)
- ・「ひな人形・押し絵」 2月2日(火)～4月5日(日)
担当：丸谷仁美・小野寺康 (民俗)
吉川耕太郎 (考古)

ロビー展示

- ・博物館教室「楽しいしぼり染め」第12回作品展
7月25日(土)～8月23日(日)
博物館教室「楽しいしぼり染め」は、生涯学習の振興と伝統的な絞り染めの技術の保存、伝承を目指し、平成9年度より毎年実施している。作品展は、教室における受講者の意欲の向上や、受講者同士の交流による技術の向上を図るため、平成11年度より開催している。26年度の教室の受講者122名の作品の中から浴衣をはじめとする101点を展示するとともに、今年度は担当職員と受講者有志による実演も行った。年を追うごとに様々な意匠の作品や技法に工夫を凝らした作品が数多く見られ、受講者はもとより多くの来館者から好評を得ることができた。



担当：藤原尚彦 (工芸)

- ・「絵筆で描く縄文土器」作品展
8月27日(木)～9月27日(日)



担当：斉藤洋子 (工芸)

▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。これまで段階的に進めてきた温湿度計のデータロガーへの切り替えを完了した。また常設展示の清掃を定期的に変更した。

▶ 解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の3点の重点項目を設定して解説業務を行った。

- 1 展示内容の正確な理解と来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫
- 2 誠意ある対応の実施
- 3 職員内情報を共有し来館者対応に活かす

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aを分担した。今年度も昨年度に引き続き冬期間にQ&A作成に重点的に取り組んだ。また、県内類似施設への研修も行い、解説業務の研鑽を積んだ。

▶ デジタルアーカイブ資料

平成24年度の「デジタルアーカイブ&アプリケーション開発事業」により、デジタル画像化した館蔵資料をスマートフォンとタブレット端末専用アプリケーション（秋田県立博物館デジタル収蔵庫＝秋田県博HD）で閲覧できるようにしている。

24年度に撮影した434点の資料のうち、27年度追加分

の128点を合わせて396点について現在公開している。アプリには日本語による解説文等のほか、国際課の協力のもと英訳文についても併せて掲載している。今後も段階的に増やし、28年度を目標に撮影した全資料を公開する予定としている。

▶ 分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成27年4月1日から平成28年3月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成27年8月29日（土）に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、8月29日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学もあわせて行った。

4 教育普及活動

博物館教室は27教室を開講し、参加者は1,917人であった。名誉館長館話は前期3回、後期3回の計6回実施し、174人の参加があった。前年に比べて館話の数が半減したが、中期ビジョンを受けて対象年齢を見直した教室やボランティア育成のための教室を開講したこともあり、トータルでは前年を上回る多くの参加者を得ることができた。

イベントは、4月下旬に『軒の山吹』再現をアイリスの会の協力を得て実施（202名来館）、7月には初の夜イベントである「盆踊りと昔語りの夕べ」を分館で実施（305名参加）、3月に進駐軍のピアノを使ったミュージアムコンサートを開催（157名参加）、文化財の新しい活

用策を模索し、多くの来館者に好評を得た。

県内博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館に対しての燻蒸サービスや、秋田市文化施設連絡会議（みるかネット）の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。

教職10年経験者研修、博物館実務実習、企業行政研修に対応するとともに、出前授業、県立大学や総合教育センターでの講義等の講師を務めた。

長期社会体験研修は2名の研修員を受け入れ、年間を通じた研修を行った。特に今年は1名の研修員が研修の成果をロビー展示という形で公開し、その支援に班をあげて協力した。

普及行事

◇博物館教室

平成27年度は27の博物館教室が計画され、予定通り実施された。のべの参加人数は1,917人で、昨年度に比べると342人の増加であった。今年度の傾向として、昨年度に引き続きシリーズ物での開催が顕著になったことが挙げられる。また、子どもを対象とした教室、ボランティア育成のための教室、部門間での連携講座や受講生の作品展示など、幅広い年齢層のニーズに応え、より柔軟な方向性を模索するような教室がおこなわれた。

	教室名	人数
1	「真澄に学ぶ教室」講読会	234
2	プロバーダー養成講座	56
3	楽しいしぼり染め ー中級コースー	290
4	楽しいしぼり染め ー研究コースー	297
5	化石と地層の観察会	38
6	小泉瀉公園でカエル調査	6
7	「真澄に学ぶ教室」講演会第1回	35
8	考古学を学ぶ	83
9	昆虫教室 ～採集と標本づくり～	36
10	夜の昆虫観察会	21
11	親子でたのしむ藍染め体験	26
12	子どもと大人の土器作り教室	34
13	絵筆で描く縄文土器	8
14	アイの生葉で染める	46
15	幕末秋田藩講話会	231
16	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	16
17	石器づくり教室	12
18	里山の植物観察会	5
19	昆虫同定技術入門	3
20	民俗学入門講座	35
21	「真澄に学ぶ教室」講演会第2回	56
22	縄文人のなりわいと心	39
23	古文書の整理と修復の体験会	18
24	ゼロからはじめるワラ仕事	90
25	「秋田の先覚記念室」講演会	82
26	初めての古文書解読	106
27	科学とは何か	14
	合計	1,917

◇名誉館長館話

前期3回を「歴史と文化を語る」、後期3回を「秋田文化への連想」と題して予定通り実施された。

館話ではご自身のエピソードも交えながら、長年の研究成果をお話しいただいた。最終回では参加者から次年度への継続の要望も出されるなど根強い人気が続いた。

名誉館長館話		人数
前期	歴史と文化を語る	86
後期	秋田からの連想	88
合計		174

◇その他行事

- ・『軒の山吹』再現
4月26日(日)～4月30日(木) 202名
- ・開館40周年記念イベント「盆踊りと昔語りの夕べ」
7月11日(土) 305名
- ・ミュージアムコンサート2016
「早川泰子の“ほっとJAZZたいむ” Vol. 5」
3月26日(土) 157名



博物館における研修・実習

◇博物館実習

平成27年度の博物館実習は、8月13日から19日までの6日間で行い、鶴見大、弘前大、中央大、東京農業大、聖心女子大、山形県立米沢女子短大、各1名の計6名の実習生を対象にして実施した。

実習は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものの二つに分かれて行った。

◇企業行政研修

秋田大学からの依頼で1名の学生を対象に、8月22日から26日までの4日間の研修を行った。

この研修は、実務を経験させ、将来の職業選択に向けて、様々な職業についての理解を深めさせることを目的としているため、博物館の機能についての講義を行い、それに伴う実務実習として、資料の整理補助・来館者調査を行ってもらった。

◇教員10年研修

栗田養護学校および金足西小学校からの教員計2名を対象に研修を行った。内容は、民俗部門の専門業務と展示準備業務、そしてわくわくたんけん室での業務を中心に研修してもらった。本研修を通して博物館の業務内容の理解を促進するとともに、博物館と学校とのより良い関係について考えていただいた。

◇教員長期社会体験研修

教育機関との連携で長期社会体験研修を実施した。27年度の研修では小学校教諭1名と中学校教諭1名を受け入れた。研修では博物館業務や研修テーマに基づいた研究を一年を通して行うことができた。

また、研修の成果を第30回秋田県教育研究発表会（会場：秋田県総合教育センター 期日：平成28年2月4日・5日）のポスター発表部門で発表し好評を得た。

○齊藤友伸（大潟村立大潟小学校教諭）

・研究テーマ

「小学校教科学習のための博物館施設・資料の有効活用の手立ての研究～施設案内・資料紹介創作などの活動を通して～」

・提案のポイント

県立博物館で研修を進められる利点を生かし、各展示室（自然展示室・人文展示室・わくわくたんけん室）の展示資料等について、より深く理解しつつ、小学校教科学習指導の中に、実際にどのように取り入れられるかを明らかにするための具体的な手立てを考えた。

○伊藤穰（男鹿市立男鹿南中学校教諭）

・研究テーマ

「ふるさと教育の課題と推進へ向けての一提案
～博物館的経営の視点から～」

・提案のポイント

学校現場においては様々な業務に追われ「ふるさと教育の充実と推進」まで十分な手が回らない現状がある。実際に自分の足で秋田を歩き、調査研究して初めて見えてくる秋田の姿について自信を持って伝えることも難しいのではないかと。そこで、秋田県に関わる様々な資料や知識をもっている県立博物館との連携を通じて、一歩踏み込んだふるさと教育の展開を考えてみた。

※「提案のポイント」については第30回秋田県教育研究発表会開催要項に掲載されたものである。

▶ 他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会（略称：秋博協）

・役員会、総会、研修会 6月4日(木)

会場：仙北市立角館樺細工伝承館（仙北市）

総会は24館31名参加

研修会1：講演「仙北市の歴史・文化」

講師：中田達夫氏

（角館樺細工伝承館館長）

研修会2：角館樺細工伝承館 見学

・実務担当者研修会 2月25日(木)

会場：秋田県立博物館学習室

15加盟館 27名参加

講演：「民俗資料（民具）から何がわかるか

～民俗資料収集・保存の意義～」

講師：小川直之氏（國學院大學 文学部 教授）

・燻蒸サービス 6月29日(月)～7月6日(月)

11施設が利用

・秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」

加盟各施設が掲載内容を随時更新した。

・会報の発行『秋博協だより』第50号

◇ボランティア活動

博物館ボランティア「アイリスの会」は、活動内容によりA・B・C・笑の4チーム編成で活動に取り組んでいる。

Aチームは、おはなし会の実施、講演会や博物館教室の受付など来館者へのサポートを中心に活動した。

Bチームは、わくわくたんけん室での体験補助を中心に活動し、27年度から機織り体験の補助を始動させた。

Cチームは、図書資料の整理（考古図書も含む）活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行った。

笑チームは、定期的にワラ細工の製作技術研修を実施しながら、博物館教室や学校団体利用のワラ細工体験を支援した。年末にはしめ縄づくり教室を開催した。

全チームによる取り組みとしては、例年の『軒の山吹』再現への支援のほか、当館開館40周年記念イベント「盆踊りと昔語りの夕べ」で「夕暮れ茶会」を主催し、記念式典用の記念品として「たたみ絞りハンカチ」を制作した。
会員数：27名（平成28年3月31日現在）

◇博物館友の会

- ・役員会 4月18日(土) 10:30～
- ・総会 4月18日(土) 13:30～
- ・研修行事

1) 「秋田学」を深める研修

- ①秋田学を深める研修1
博物館企画展展示研修 4月18日(土)
- ②秋田学を深める研修2
久保田城とその城下町探訪 6月26日(金)
- ③秋田学を深める研修3
湯沢のジオパークを学ぶ 10月17日(土)

2) 見学博物館等研修

- ①山形市・米沢市の歴史と文化を訪ねる旅
9月9日(水)～10日(木)
- ②絹の町足利市・桐生市・富岡市の旅
11月8日(日)～10日(火)

・植物標本・考古学・古文書整理の各ボランティアによる活動

・友の会だより 第40号・第41号の発行

3) 考古学ボランティアの活動

- 活動日 適宜
 - 活動内容①収蔵資料の整理・クリーニング
 - ②博物館教室等のイベントの準備、サポート
 - ③館内外での研修
- 活動メンバー 11人

4) 古文書整理ボランティアの活動

- 活動日 毎月2回水曜日
 - 活動内容①本館収蔵の守屋家資料(未整理分)の整理・目録化作業
 - ②守屋家資料「御用日記」(嘉永6年2月～3月)の翻刻
『秋田県立博物館研究報告』第41号に掲載
- 活動メンバー 9人

◇その他団体(みるかネット等)

秋田市内文化施設連絡会議は平成23年度から活動し、市内文化施設相互の連携を図りながら展示等の活動を充実させてきているものである。今年度は、国際博物館の日にあわせて、5月16日にギャラリートークセッション2015「みんなで行こう、みゅーじあむ!」で、企画展「石斧のある世界」の展示解説を行った。11月13日には、みるかネット連携講座で、「秋田の建物探訪～武家・商家・農家をめぐる～」を開催した。また、同会議が発行しているイベント通信15、16号に対して企画展等の情報を提供した。

また、金足地区の地域団体「かなせの古里会」が主催したイベント「オールドカーin金足」にNPO法人油谷これくしょんとともに協力し、館内で見学会・子供工作体験を行った。

▶ 博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動について新聞、雑誌等によって100件近い記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。特別展「徳川将軍家と東北」における新聞折り込み広告の実施などの活動はもとより、館全体での継続的な広報活動の成果が表れたものと考えている。

掲載記事を記録集にまとめ、年に2回行われる博物館協議会において委員各位に配付した。委員からは、博物館活動が広く伝えられている、展示やイベントの魅力がわかる、などという評価を受けるとともに、今後も積極的に広報・PR活動をより一層拡充してもらいたいという意見をいただいた。

博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の博物館活動の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

平成27年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである(軽微なものは除く)。

考古21件 歴史10件 民俗19件 工芸8件 地質6件
生物30件 先覚52件 真澄23件 その他3件

5 広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。秋田市内のコンビニエンスストアに対しては、県の計画に沿って配布した。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく、積極的に行った。特別展については、従来の広報活動に加えて、館をあげて考え得るすべての方法を用い

て情報を発信した。

ホームページは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて掲載情報を更新した。フェイスブックは、複数による発信を行い、投稿の頻度を増やすことにより、リーチ数が飛躍的に伸びた。また、事後報告から事前予告を中心とした内容に変更したことにより、来館者増につながった。

印刷出版

◇展示ポスター

- 特別展「徳川将軍家と東北～泰平の世の歴史と名宝～」
B 2判 2,000部
- 企画展「石斧のある世界」
B 2判 1,200部
- 企画展「博物館の挑戦状～秋田現代史への招待～」
B 2判 1,200部
- 企画展「新着・収蔵資料展～未見！発見！秋田県！～」
B 2判 1,200部

◇展示広報チラシ

- 特別展「徳川将軍家と東北～泰平の世の歴史と名宝～」
A 4判 50,000部
- 企画展「石斧のある世界」
A 4判 20,000部
- 企画展「博物館の挑戦状～秋田現代史への招待～」
A 4判 20,000部
- 企画展「新着・収蔵資料展～未見！発見！秋田県！～」
A 4判 20,000部

◇展示図録

- 特別展「徳川将軍家と東北～泰平の世の歴史と名宝～」
(東北歴史博物館との共同出版) A 4判 151頁 3,000部

◇展示解説資料

- 企画展「石斧のある世界」
A 4判 8頁 3,000部
- ロビー展示「楽しいしばり染め第12回作品展」
A 4判 8頁 2,000部
- 秋田の先覚記念室企画コーナー展
「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」
A 4判 8頁 1,000部

◇広報誌

- 博物館ニュースNo.161・162
A 4判 8頁 各2,300部
- 広報紙「真澄」No.33
A 4判 8頁 1,500部

◇報告書等

- 年報 平成27年度
A 4判 44頁 1,000部
- 秋田県立博物館研究報告 第41号
A 4判 140頁 600部
- 真澄研究 第20号
A 5判 121頁 500部

広報活動

特別展、企画展の広報については、内容に合わせた手法をその都度検討して実施した。特に特別展「徳川将軍家と東北」では、隣接する公園内での園内放送や他施設のイベントでのチラシ配布、初の試みであった地元地方紙への折込チラシなどの広報により、集客面からも効果を実感できる結果を得ることができた。

各報道機関等への情報提供については、県庁記者クラブへのプレスリリース27回をはじめ、広報誌「教育あきた」、 「生涯学習だより」、 「県政テレビ・ラジオ」等へ

の掲載を積極的に働きかけることにより、企画展・特別展はもとより企画コーナー展や各種イベントなどに多くの取材があった。

各展示のポスターやチラシ等の印刷物については、学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博物館、道の駅などの観光施設等に発送している。これまで、ともしれば発送作業が開展間近になってしまうこともあったが、早めの納期にあわせた準備など展示担当者からの協力もあり、概ね開展1ヶ月前までに広報することがで

きた。

広報は集客に直結するものであり、予算の範囲内で広く周知することができるよう、また多くの県民

に興味・関心を持っていただけるよう、より効果的な広報について今後も工夫と改善を図っていきたい。

インターネット利用

平成26年度末にドメインを取得し、公式ホームページのアドレスも新しいものに変更して運用している。容量に余裕がでたため、過去の印刷物もデータとして追加している。27年度のアクセス数は約6万回。フェイスブックも適宜更新して情報を発信しており、一定の効果が見

られるため、今後も引き続き情報提供を行う予定である。

電子メールについては、様々な問い合わせや教室などへの申し込みなどに使用されており、担当者が定期的にチェックして対応している。

6 学習振興活動

学習振興班では、体験展示室「わくわくたんけん室」の運営と、教育普及の一部であるセカンドスクールの利用の対応をおこなっている。

わくわくたんけん室は、博物館の展示と連動して郷土の歴史や取り巻く自然、培われてきた文化などをアイテム化し、多くは壁面の棚の「宝箱」とよんでいる箱に入れてある。中に入れてあるマニュアルに従い、楽しく自主活動をしてもらうことを目指している。平成27年度は企画展示室との連携企画を取り入れ、活気ある運営ができた。季節イベントの開始や終了については、来館者数や材料数を考慮し臨機応変に対応した。

セカンドスクールの利用は、学校以外の教育施設において教師が当該施設や人材などを活用し、授業時数にカウントするものである。平成27年度は、前年度に引き続いて、学芸職員が学校に出向いての出前授業にも力を入れ、利用校数、利用人数ともに前年度より増加した。また、利用促進目的で「教員のための博物館の日」を学校が夏季休業中の8月に開催した。前年度の要望をふまえ、平成27年度は午前、午後通した余裕のあるスケジュールとし、展示室や貸出資料など博物館の利用について紹介することができた。

わくわくたんけん室の運営

平成27年度は工作アイテム利用数、イベント参加数共に昨年度に比べ平均1.5倍増となった。学童への広報範囲を広げたり、わくわくカレンダーを製作し利用者へ今後のイベントについての告知を積極的に行うなど、広報活動に力を入れたことで利用者増につながったと思われる。

季節イベントに関して、毎年好評の「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ」は今年度も春秋の2回実施した。今回はお宝カードを24枚まで増やすことで、コンプリートしたいという子供が、多く足を運ぶ姿が見られ、昨年との2倍の参加者となるなどの人気ぶりがうかがえ

た。また新しい試みとして、客足の遠のく冬期間に、わくわく科学コーナーを期間限定で増設した。付帯事業としてのロボコン教室も開催し、来館者から好評であった。

運営に関して平成27年度特に力を入れたのは、企画展示室との連携である。展示に関連したイベントや工作などを、わくわくたんけん室独自に企画した。わくわくたんけん室目当ての来館者も積極的に展示室へ誘導するようなしかけを行うことで、楽しみながら学ぶことのできる場の提供を心がけた。

このように、来館者がいつ来ても楽しいと思えるような、変化のある取り組みを実践し、一定の効果を得た。

学校の博物館利用の援助

学校団体の利用状況を平成26年度と比較すると、高等学校、特別支援学校の利用増の影響により、全体として校数、人数とも増加した。

高等学校では、近隣高校での学習利用が増えたため、9校、219人増加した。特別支援学校の利用人数は、約100人増加した。「縄文時代」をテーマにした授業実践

を通し、何度も来館して学習を深めた。

中学校の利用人数は、地質の出前授業での利用が多数あり、598人増加した。また、大館市で開催した出張展示「おおだて縄文人のくらしと折り」を利用した出前授業を実施した。

幼稚園・保育所の申込数も増加している。ただし、利

用時に晴天が多かったため来館されず、実質の利用数は、昨年比べ9校、735人減少した。

高等学校インターンシップ、職場体験は例年並みの利用であった。

利用の受け入れにあたっては、目的や人数などを確認の上、必要に応じてこちらから日程や見学内容を提案し、より有意義なものとなるよう心がけた。利用増には教員の認知度向上が不可欠であることから、「教員のための博物館の日」を開催し、授業例を紹介した。また、

セカンドスクールの利用についてのパンフレットを作製し、各校に学年数分を送付した。

	学校数	利用人数	授業カウント内訳				
			教科	道徳	総合的な学習	特別活動	その他
幼稚園・保育所	14	593	0	0	0	0	15
小学校	97	4,289	95	0	11	5	5
中学校	31	1,673	4	0	24	2	1
高等学校	24	777	10	0	2	6	5
特別支援学校	8	124	7	0	1	0	1
その他	3	91	1	0	0	1	1
合計	177	7,547	117	0	38	14	28

博物館における研修・実習

<インターンシップ>

能代高等学校（3名）	7月22日（水）～24日（金）
和洋女子高等学校（5名）	8月12日（水）～14日（金）
金足農業高等学校（1名）	7月30日（水）～8月1日（土）
男鹿海洋高等学校（4名）	9月2日（水）～4日（金）
男鹿工業高等学校（4名）	9月29日（火）～10月1日（木）
秋田商業高等学校（4名）	11月17日（火）～19日（木）

<職場体験>

山王中学校（2名）	5月28日（木）～29日（金）
秋田北中学校（2名）	7月7日（火）～8日（水）
大曲中学校（4名）	9月1日（火）～2日（水）
天王中学校（6名）	10月27日（火）～30日（金）
天王南中学校（2名）	10月20日（火）～23日（金）
羽城中学校（2名）	10月20日（火）～23日（金）
男鹿南中学校（2名）	7月7日（火）～8日（水）
泉中学校（5名）	10月15日（木）～16日（金）

7 開館40周年記念事業

◇記念式典

- 1 期日 平成27年9月27日（日）10：30
- 2 会場 秋田県立博物館 講堂
- 3 式典次第
開会のことば
式辞 館長 佐々木 人美
教育委員会挨拶 県教育委員 岩佐 信宏
来賓祝辞 県議会 教育公安委員会
委員長 加藤 鉦一

感謝状贈呈

—贈呈団体—

- 秋田県立博物館友の会
- 秋田県立博物館ボランティア「アイリスの会」
- 灯乃会
- 金足浦山老人クラブ
- 閉会のことば

◇記念講演

- 1 期日 平成27年9月27日（日）11：00
- 2 会場 秋田県立博物館 講堂
- 3 演題 「久保田藩の秋田色」
- 4 講師 秋田県立博物館 名誉館長 新野 直吉



8 館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第41号」は除く）

新野 直吉	「読みなおす日本史 古代日本と北の海 みち」 （吉川弘文館） 「古代における鳥海山信仰」 （日本山岳修験学会誌）
畑中 康博	「皆様、こもんじょパラダイスです」 （『楽園』28号） 「秋田美人」 （『楽園』29号） 「使命感と勇気－鈴木惣左衛門（父）の 意見書－」 （『楽園』30号） 「ゲバール銃にかけた未来－鈴木惣左衛 門（子）の話－」 （『楽園』31号） 「新史料発見の喜び」 （『楽園』32号） 「鼠小僧次郎吉の話」 （『楽園』33号）
吉川耕太郎	「秋田県域における石材資源開発」 （秋田歴研協会誌） 「秋田県域の珪質頁岩」 （東北日本の旧石器文化を語る会）

◇講演、講座など

松山 修	「擬古文で読む菅江真澄（全3回）」（秋 田県生涯学習センター発見！ミュージア ムゼミ） 「真澄遊覧記の読み方、考え方」 （県高等学校文芸祭文芸部会）
梅津 一史	「昆虫から見た秋田の自然」（秋田県立二 ツ井高等学校白神プロジェクト招へい講 座）
船木 信一	「秋田の自然」（南秋田郡教育研究会理科 部会教科研究会）
畑中 康博	「秋田県立博物館友の会古文書整理ボラン ティア活動開始!!」（秋田近代史研究会） 「秋田藩戊辰戦争神主部隊かく戦えり」 （秋田の史跡を学ぶ会） 「秋田の歩き方入門」（秋田県立大学） 「盛曲線敷設運動と地域社会」 （公益社団法人鉄道貨物協会秋田県部会） 「公文書館とは何か」 （大仙市アーカイブズ職員研修）

	「『ペリー来航』と秋田」（秋田県生涯学 習センタースマートカレッジ「あきたふ るさと講座」） 「作られる官軍像－秋田藩戊辰戦争をめ ぐる記憶と記録－」 （秋田歴史研究者・研究団体協議会） 「明治時代における秋田藩維新史の誕生 ～久保田の戊辰戦争の歴史をたどる～」 （秋田県生涯学習センタースマートカ レッジ「秋田市探訪」） 「幕末の秋田の歴史」 （中央ナイスミドルカレッジ） 「守屋家資料の魅力」 （横手市前田公民館・大森町郷土研究会）
新堀 道生	「『風俗絵巻』『町触控』と秋田の風俗」 （秋田県生涯学習センタースマートカ レッジ「あきたふるさと講座」）
丸谷 仁美	「秋田の民俗」（秋田県生涯学習センター 発見！ミュージアムゼミ） 「秋田の歩き方入門」（秋田県立大学）
吉川耕太郎	「秋田県域における先史人類の石材資源 開発」（秋田歴研協フォーラム） 「石斧のある世界」（秋田県生涯学習セン ター発見！ミュージアムゼミ） 「縄文人からのメッセージ」 （大湯ストーンサークル館） 「おおだて縄文人のくらしと祈り」 （小畑勇二郎記念館） 「北の縄文鉈山」（上岩川中央熟年クラブ） 「縄文人の磨製石斧」 （東成瀬村まるごと自然館） 「稲作以前～横手盆地の稲作の起源と歴史～」 （よこてシャイニーパレス） 「旧石器人類の進化と芸術性の獲得」 （秋田公立美術大学） トークセッション「新しき動物たち～ アート神話の解体」（神奈川県民ホール） 「秋田県域の珪質頁岩」（アオーレ長岡） 「縄文人の石材利用」 （仙台市縄文の森公園）

浅利絵里子	ふるさとセミナー「モノでみる秋田の葉あれこれ」 (秋田県立図書館) 昭和湖南大学「モノで見る秋田の葉あれこれ」 (潟上市昭和公民館) 新春懇話会「モノで見る秋田の葉あれこれ」 (大住学区振興会) 「石川翁の底に流れるもの」 (石川理紀之助翁顕彰会)
-------	---

◇委員委嘱

新野 直吉	史跡弘田柵跡調査指導研究委員(委員長) 秋田城跡整備委員会委員(委員長) 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会委員(会長) 後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員会特別委員 秋田大学附属中学校評議委員 由理柵・駅家研究会顧問 和文化教育全国大会(由利)顧問
渡部 均	秋田県環境教育等推進協議会委員
船木 信一	大潟村干拓博物館博物館協議会委員 農林水産省八郎潟地区環境配慮調査環境アドバイザー(鳥類)
梅津 一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員会委員
畑中 康博	大仙市公文書館設置懇話会委員
藤原 尚彦	鹿角市有形民俗文化財記録作成調査委員
新堀 道生	「秋田県の仏像と寺社什物」文化財収録作成調査委員
丸谷 仁美	鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 横手市文化財保護審議会委員
吉川耕太郎	日本考古学協会全国埋蔵文化財保護対策委員 大館市文化財保護審議会審議委員



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (平成28年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,698	450	13,711	8,551	2,636	9,979	102,470	15,498	5,138	2,209	164,340

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第34号	鐺 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第62号	鐺 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

II 歴代館長、特別展等一覧

▶ 名誉館長

新野直吉	平成12年4月～
------	----------

▶ 歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月

富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月
沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木人美	平成27年4月～

▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼

平成8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川将軍家と東北

Ⅲ 秋田県立博物館条例

(昭和50年3月12日公布
昭和50年5月1日施行
平成24年4月1日最終改正)

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足鳩崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1 (第4条関係)

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

別表第2 (第4条関係)

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,700円
	半 日 5,850円
学 習 室	1 日 3,500円
	半 日 1,750円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

平成26年度

総入館者数 104,036人

有料展示

菅江真澄、旅のまなざし

平成27年度

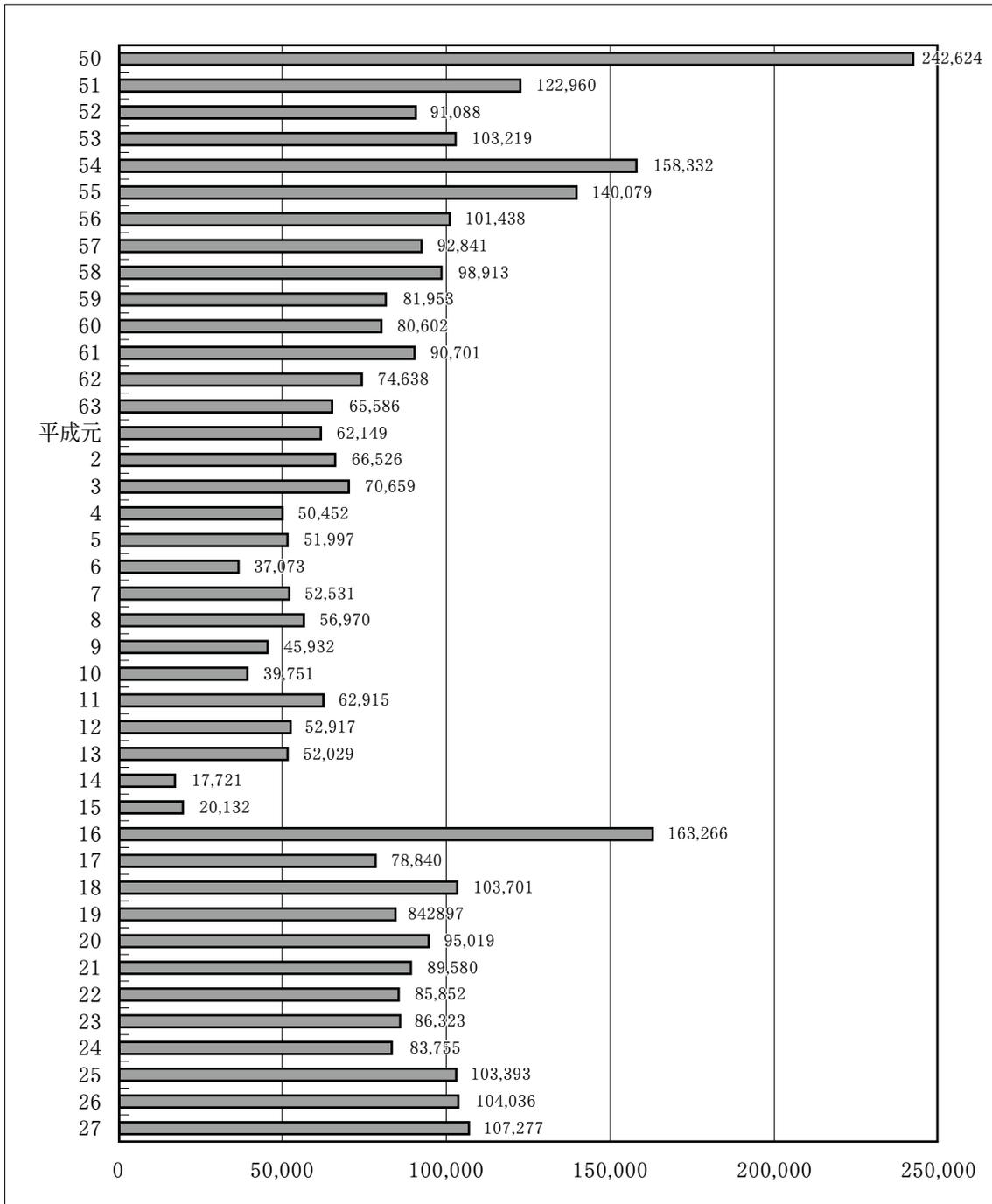
総入館者数 107,277人

有料展示

徳川将軍家と東北

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,470,670人（平成27年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)
・年末年始
(12月28日～1月3日)
・燻蒸消毒の期間
平成28年度は9月1日(木)～9月8日(木)

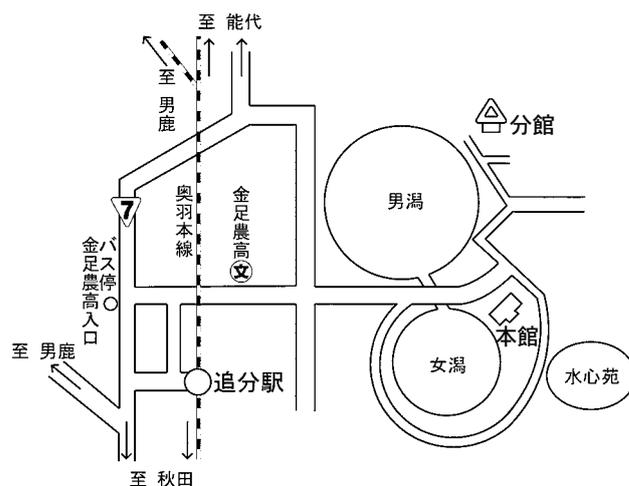
入館料

通常料金 無料
平成11年4月1日から、博物館の入館料が無料になりました(本館・分館とも)。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

区分	金額
講堂	1日 11,700円
	半日 5,850円
学習室	1日 3,500円
	半日 1,750円

～交通案内～



本館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車：秋田自動車道 昭和男鹿半島 I C より10分
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩35分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

平成28年6月発行
〒010-0124
秋田市金足鳩崎字後山52
秋田県立博物館
TEL 018-873-4121
FAX 018-873-4123

